

科 目 名	情報・統計処理（国際） Informatics/Statistical Processing	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	統計学の基本的な概念を学ぶとともに実際の運用の場面での使い方を学ぶ。具体的には基本統計量、記述統計・推測統計の違い、正規分布、検定等とその応用を学習する。 統計の基礎について学び、演習を通じて、情報分析力と統計手法、データ活用の方法を身に着けることを目的とする。		
授業概要	最初に、表計算ソフトの利用法について学ぶ。次に、様々な情報を客観的に記述、解釈するための手段である統計の基礎について学び、その分析手順を修得する。次に、学んだ知識を使い、データ収集と収集したデータの分析を行う。実験的な演習・分析や、地域（岐阜）に関する実際のデータ（政府の公的統計など）の分析を通じて、学んだ知識の定着を行う。最後に、データサイエンスやAIに関する文献調査をし、プレゼンテーションによる発表を行い、お互いの発表を聞くことで、この分野に関する知識を深めるとともに、視野を広げる。 【SDGs：4,9】 【岐阜学関連の授業回：⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮】		
授業計画	① ガイダンス、身近にある統計 ② 表計算ソフトの利用方法（関数など） ③ データビジュアライゼーション、データ分析ツール ④ 代表値とばらつき ⑤ クロス集計表、ヒストグラム ⑥ 四分位法、箱ひげ図 ⑦ 相関分析、回帰分析（１） ⑧ 相関分析、回帰分析（２） ⑨ 統計的仮説検定（１） ⑩ 統計的仮説検定（２） ⑪ 統計処理演習（１）データの収集と分析 ⑫ 統計処理演習（２）データの分析とまとめ ⑬ 統計処理演習（３）発表 ⑭ 統計処理演習（４）発表、データサイエンスとAIの関連 ⑮ 統計処理演習（５）発表、総括とまとめ ⑯		
予復習等	【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。		
評価方法	平常点１５％、課題および授業内試験８５％		
履修条件	なし。		
教 科 書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参 考 書	『Excelデータ分析の教科書』、日花弘子著、SBクリエイティブ株式会社出版		

科 目 名	中国文化論 Chinese Cultural Studies	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年前期）	科目区分	講義
担 当 者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	中国は世界一の人口を持つ、多民族国家であり、唯一消滅していない古代文明の地である。改革開放後経済力が急上昇し、アメリカに続きGDPで世界2位にまで発展した。日本とお互いに最大の貿易相手であり、日本における外国人観光客、留学生、常住者、ビジネス関係者はすべて中国が1を占めており、身近な存在である。本講義は、中国の多様性文化現象から、少数民族、世界遺産、大衆娯楽文化などに焦点をあて、中国社会の特徴と中国式考え方に触れてもらう。日本と異なる中国社会や文化特徴を理解し、グローバル化社会で多文化の共存していくことの大切さと、自分自身の世界観を広げることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 中国の民族、音楽、芸能、ジェンダーなどの文化を紹介しながら、中国社会における多様性を考察していく。改革開放以降に表れてきた経済発展と娯楽文化も紹介する。理解を深めるために動画などの視覚教材を活用し、講義を進めていく。 この授業は中国人留学生も履修していて、隔週開講の高大連携授業でもあり、留学生や、高校生との交流機会を設けるので、積極的に参加しよう。 【SDGs：10,16】		
授業計画	① 中国って、どんな国？ ② 中国の食文化と観光 ③ 漢民族と少数民族 ④ 中国の「Z世代」と「国潮」 ⑤ 中国の女性と結婚観 ⑥ ゼロコロナからみる中国式考え方 ⑦ グループ発表 ⑧ グループ発表 ⑨ グループ発表		
予復習等	【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う		
評価方法	出席状況30%、感想文の提出30%、グループ発表40%による総合評価		
履修条件	なし		
教 科 書	なし。パワーポイントを用意する		
参 考 書	なし		

科 目 名	英語コミュニケーションⅠa English Communication Ia	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. The aim is to help students understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. With this knowledge, students will be able to use simple expressions to speak like native speakers of English.		
授業概要	Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year. 【SDGs : 4, 17】 【岐阜学関連の授業回 : ④, ⑤】		
授業計画	① Unit 1 (Part 1): Three Golden Rules / Natural greetings ② Unit 1 (Part 2): Golden Rule #1 / Club activities ③ Unit 1 (Part 3): Implicit questions / Part-time jobs ④ Quiz / Unit 3 (Part 1): Hometown attractions ⑤ Unit 3 (Part 2): Hometown likes & dislikes ⑥ Unit 3 (Part 3): Where will you live in the future? ⑦ Quiz / Practice for speaking test ⑧ Speaking Test #1 ⑨ Unit 2 (Part 1): Daily routines ⑩ Unit 2 (Part 2): Hardest / easiest days of the week ⑪ Unit 2 (Part 3): Daily activities / Golden Rule #3 ⑫ Quiz / Unit 6 (Part 1): Music ⑬ Unit 6 (Part 2): Movies ⑭ Unit 6 (Part 3): TV, games, and social media ⑮ Quiz / Practice for speaking test ⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	Students need to have a desire and motivation to speak English.		
教 科 書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto. 2015.		
参 考 書	http://www.cic-multimedia.com/		

科 目 名	英語コミュニケーションⅠb English Communication Ib	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to develop practical communication skills for everyday English conversations. To this end the course will focus on building up confidence in English abilities through scaffolded listening and speaking activities. Students will also learn about American and British customs and culture in order to introduce a more international outlook.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 The course will review speaking activities familiar to the students such as introductions, family life and hobbies before introducing more challenging communication activities such as asking for information, telling a story and discussing problems. 【SDGs : 4】 【岐阜学関連の授業回 : ②, ⑭】		
授業計画	① Orientation. Introduction and ice breaker activities. ② Class album. Simple information exchange. Polite, impolite questions. ③ Favorite photos. Describing family and friends. Follow up questions. ④ Personal goals. Describing future goals. Asking for advice. ⑤ Believe it or not. Telling a story. Reacting with interest. ⑥ Where I grew up. Using the past tense and `used to`. ⑦ Bargain shopper. Shopping expressions and bargaining for goods. ⑧ Review and speaking mid term assessment. ⑨ The perfect gift. Japanese, American and UK gift giving customs. ⑩ Party planner. Holidays in Japan, the US and the UK. Invitations. ⑪ Music profile. Likes, dislikes and genres of music. Reported speech. ⑫ Style makeover. Describing appearance and clothing. Giving advice. ⑬ Honesty. Telling stories. Asking hypothetical questions. ⑭ Making things better. School problems. Using `too` and `(not) enough`. ⑮ Review and speaking assessment. ⑯ End of term examination.		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Mid term speaking assessment 20% End of term speaking assessment 20% Participation 10% End of term examination 50%.		
履修条件	なし		
教 科 書	Active Skills for Communication Book 1. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参 考 書	なし		

科 目 名	検定英語演習 I Skills for English Proficiency Exams I	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1 年前期）	科目区分	演習
担 当 者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	TOEIC 5 5 0 点獲得を目指して必要な英語力や攻略法を身につけることを目的とする。リスニングでは、ナチュラルスピードの会話に慣れ、必要な情報を聞き取れるようにする。リーディングでは、テキストから必要な情報をすばやく読み取る力をつけるとともに、出題頻度の高い語句・表現や、基本的な文法もしっかりと学習する。		
授業概要	授業では、TOEICによく取り上げられるテーマを基にリスニング、リーディングの演習を行い、基礎的な英語力の向上を図るとともに、TOEIC各パートの攻略法を身につける。また、英検の問題、特に面接に慣れるために、2回の授業をあてる。 授業の最初に、語彙の増強に努めるが、発音できない単語は聞き取れないので、発音についてもしっかりと学習する。続いて、各パートの練習問題を解きながら、そのポイントの説明をする。 毎回前週のUnitのリスニングの書き取りを行い、それを提出してもらう。あわせて単語の小テストを行う。 【SDGs: 4,5,9】		
授業計画	① ガイダンス。TOEICと英検の模擬問題に解答してもらい、解説をする。 ② Unit 1 Events ③ Unit 2 Eating Out ④ Unit 3 Shopping ⑤ Unit 4 Office ⑥ Unit 5 Housing ⑦ 英検の筆記試験対策 ⑧ Unit 6 Community ⑨ Unit 7 Facilities ⑩ Unit 8 Personnel ⑪ 英検の面接対策 ⑫ Unit 9 Meetings and Workshops ⑬ Unit 10 Transaction and Finance ⑭ Unit 11 Travel ⑮ Unit 12 Health ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各ユニットの問題に解答して授業に出席する。 【復習】毎回、前回授業のリスニングの書き取りを授業の初めに行う。また前回学んだ単語の小テストを行う。このための準備をする。		
評価方法	授業態度（毎回のリスニングの書き取り提出を含む）20%、毎回の単語小テスト30%、期末試験50%		
履修条件	なし		
教 科 書	『Full Gear for the TOEIC L&R Test』金星堂		
参 考 書	なし		

科 目 名	初級中国語 I（Aクラス） Basic Chinese I	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1 年前期）	科目区分	演習
担 当 者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語の初心者向けの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかりと練習し、中国語の発音に慣れるように頑張ってもらいたい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。 一年間を通して「初級中国語I、II」で中国語検定資格の準4級あるいは4級を取得できるレベルを目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験】トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった【実務経験】 に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。 テキストに沿って、発音練習や文法の説明、練習問題などを行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を繰り返す。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。】 【SDGs: 10,16】		
授業計画	① 中国語の勉強方法、中国語検定試験の説明 ② 単母音、複合母音 ③ 子音、声調 ④ 変調の規則 ⑤ 第1課 お名前は？ ⑥ 第2課 これは私のパソコンです。 ⑦ 第3課 ここは寒いです。 ⑧ 第4課 7時に起きます。 ⑨ 第5課 学校まで遠いです。 ⑩ 第6課 何コマがありますか。 ⑪ 第7課 お幾つですか。 ⑫ 第8課 図書館で勉強します。 ⑬ 第9課 どこへ行きましたか。 ⑭ 第10課 パンを食べたいです。 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回のミニ練習に備える。		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教 科 書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500＋税		
参 考 書	なし		

科 目 名	初級中国語Ⅰ（Ｂクラス） Basic ChineseⅠ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年前期）	科目区分	演習
担 当 者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	外国語の学習は、単に情報獲得の道具を得るためでなく、その言語の背景にある人々の文化の理解も重要である。従って本授業は中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけて、中国の文化や習慣に触れながら、簡単な会話ができることを目指す。		
授業概要	テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初に小テストを行うから、小テストの準備も授業の一部と考えてください。 【SDGs：4, 16】		
授業計画	① 中国語とは？単母音、複合母音 ② 子音、声調 ③ 変調の規則 ④ 第1課 お名前は？ ⑤ 第2課 これは私のパソコンです ⑥ 第3課 ここは寒いです ⑦ 第4課 7時に起きます ⑧ 第5課 学校まで遠いです ⑨ 第6課 何コマがありますか ⑩ 第7課 今年は何歳ですか ⑪ 第8課 図書館で勉強します ⑫ 第9課 どこへ行きましたか ⑬ 第10課 パンを食べたいです ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】小テストの準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20％、小テスト40％、試験40％による総合評価		
履修条件	なし		
教 科 書	『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500+税		
参 考 書	授業の中で随時紹介する		

科 目 名	初級韓国語Ⅰ Basic KoreanⅠ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年前期）	科目区分	演習
担 当 者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	韓国語の入門クラスとして韓国語の文字であるハングルに慣れながら、ことばの基礎を学ぶ。前半では韓国語の文字とその発音を十分練習し、後半では、基礎文法と語彙を中心に表現演習をする。 この授業は、①ハングル文字を発音でき、書くことができる。②簡単な自己紹介ができるようになる。③基本的な挨拶でコミュニケーションがとれることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】 韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方だけではなく、言語にまつわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半では文字と発音の学習に力点をおき、後半では助詞の使い方や叙述・疑問・否定・尊敬などの用言活用を中心に学習する。授業には主体性と積極性を発揮して臨んでほしい。 【SDGs：4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 母音 ③ 子音 ④ パッチム ⑤ 1課 한국 사람이예요.（韓国人です） ⑥ 2課 회사원이 아니예요.（会社員ではありません） ⑦ 3課 서울역 근처에 있어요.（ソウル駅の近くにあります） ⑧ 4課 생일이 언제예요?（誕生日がいつですか） ⑨ 5課 도서관에 가요.（図書館に行きます） ⑩ K-POPで習う韓国語表現 ⑪ 6課 테니스를 좋아해요.（テニスが好きです） ⑫ 7課 티켓이 2장 있어요.（チケットが2枚あります） ⑬ 8課 부산에 가고 싶어요.（釜山へ行きたいです） ⑭ 9課 지하철을 타면 돼요.（地下鉄に乗るといいですよ） ⑮ 10課 저녁을 먹으러 식당에 갔어요.（夕食を食べに食堂に行きました） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙を予め予習しておくこと。 【復習】小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	発表10％、提出物及び授業態度20％、小テスト30％、定期試験40％(授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	なし		
教 科 書	『ステキな韓国語初級』、柳蓮淑、朴玉珠、呉吉煥 著、社会評論社		
参 考 書	なし		

科 目 名	日本語表現法Ⅰ Japanese CompositionⅠ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担 当 者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本語を世界のなかの一言語としてとらえ、長所や弱点を客観的に知ること、読み手に伝わりやすい書きことばの表現を自分で考え、作文に活用できるようになることを目的とする。さまざまな種類の文章に触れることにより、その文章を書く目的は何か、目的に応じて求められる内容は何かを的確に判断し、場面に応じて適切な書きことばの表現を選択できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの4機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に扱う。まず日本語の特質を客観的にとらえることから始め、それを念頭に、内容を読み手に適切に伝えるための語句の選択、自然な語順、待遇表現と敬語、文章のさまざまな型を学ぶ。テキスト各節の練習問題および付録のワークブックを用い、実用文書としての案内文や型に依りつつ個性を発揮できる手紙文の作成のほか、文章の要約の練習も取り入れながら進める。課題レポートを作成するためのポイントやタイトルの付け方、内容の組み立て方も実践的に学ぶ。 【SDGs：4、10】		
授業計画	① ガイダンス、日本語の書きことばの特質（1） ② 日本語の書きことばの特質（2） ③ 日本語の書きことばの特質（3） ④ 語句の選択、自然な語順、表記 ⑤ 待遇表現と敬語（1） ⑥ 待遇表現と敬語（2） ⑦ 待遇表現と敬語（3）、文章を書く際の留意点 ⑧ 文章の種類と型、求められる内容 ⑨ 案内文の作成 ⑩ 手紙文の作成（1） ⑪ 手紙文の作成（2） ⑫ 手紙文発表・講評 ⑬ 文章の要約（1） ⑭ 文章の要約（2） ⑮ 文章の要約（3） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40％、演習・発表への取り組み30％、定期試験30％		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科 目 名	フランス語Ⅰ FrenchⅠ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担 当 者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour！と笑顔であいさつできることが一番大切です。SDGsの17の目標に関わるフランスのトピックを紹介していきます。日本と比較しながら、岐阜県についての理解を深める教材で、様々なフランス語単語や表現を覚えていきましょう。在学中にフランス語検定に合格できるように文法を分かりやすく解説します。楽しくフランス語を学びながら日本のゆたかさを考察する機会にもなるような、生きたフランス語を身につけていきましょう。		
授業概要	毎回の授業が、新しい“できる”がふえていくレッスン内容です。フランス語の単語は実は日本の外来語由来にとっても多く、みなさんにとって身近な単語がたくさんあります。日本人は昔からフランスで多くのことを学び、そしてフランスからもたくさんの人々が日本を学ぼうと来日しています。みなさんの表現力が向上する例文を用意して“伝える・伝わる”フランス語をいっしょに身につけていきましょう。練習問題を通して文法力もアップします。Après la pluie, le beau temps. 最初は難しいフランス語も必ずできるようになります。 【SDGs：2, 3, 5, 8, 11, 12, 13, 14, 15, 17】		
授業計画	① 辞書の使い方、発音、男性形と女性形、形容詞、学習方法のガイダンス ② 動詞の活用と冠詞について ③ 指示形容詞と日常のあいさつ表現〔SDGs：⑤⑧⑩トピックス紹介〕 ④ 前置詞〔SDGs：③④⑤トピックス紹介〕 ⑤ 過去形〔SDGs：②⑩⑬トピックス紹介〕 ⑥ フランス語検定試験問題を使って、冠詞・前置詞の復習 ⑦ 自己紹介 数字 1～50 ⑧ 他者紹介 数字 50～100 ⑨ フランス語検定試験問題を使って、動詞の活用の復習 ⑩ 基本的な日常会話練習① ⑪ 岐阜県の郷土料理をフランス語で紹介してみましょう ⑫ 岐阜県の観光地をフランス語で紹介してみましょう ⑬ フランス語検定試験問題5級レベルにトライ（詳しい解説します） ⑭ 〔SDGs⑪〕大切にしていきたい日本のゆたかさをみんなでフランス語で書いてまとめてみる ⑮ フランス語Ⅰのまとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	はじめての外国語の辞書を使いますので、辞書に慣れるためにもこまめに調べましょう。教科書には発音をカタカナでふらない様にするため、ノートに本文をうつしておきましょう。 毎回予習30分 復習30分 音声練習30分		
評価方法	出席状況及び授業態度：25％ 小テスト：15％ 定期試験：60％		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がよいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）を。		

科 目 名	韓国文化論 Korean Cultural Studies	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担 当 者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	朝鮮半島の歴史について理解することを目的とする。具体的には、学生が朝鮮半島の歴史の基礎的知識を習得し、朝鮮半島での歴史の変遷、各時代の特徴、各時代の王朝と中国大陆や日本との関係が説明できるようになることを目標とする。さらには、隣国の歴史を理解することが日本と朝鮮半島との関係について理解を深めることにつながることが期待される。		
授業概要	最初に朝鮮半島の地理の概要について学ぶ。次に、古代から近代まで朝鮮半島の各時代、各王朝の特徴を学ぶ。その際、中国大陆の各王朝や日本との関係を重視する。続いて、日本による植民地統治とその後の南北朝鮮の分断について学ぶ。この授業は隔週で行うなので、授業が開講される日に注意すること。全8回の授業であり、回数の少ない授業なので予習復習に努めることが授業の内容を理解するために大切である。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 地理 ② 古朝鮮と漢四郡 ③ 高句麗と三韓 ④ 統一新羅と渤海 ⑤ 高麗 ⑥ 朝鮮 ⑦ 大韓帝国と日韓併合 ⑧ 大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国 ⑨ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後はノート整理に努めること。		
評価方法	レポート50％、定期試験50％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『朝鮮を知る事典』／著：伊藤亜人ほか／出版：平凡社		

科 目 名	国際コミュニケーション概論 Introduction to International Communication	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担 当 者	オムニバス	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、国際コミュニケーション学科の各教員によるオムニバス形式で実施する。本講義の目標は、受講生が日本を含む世界の様々な地域、または学科教員のさまざまな研究分野に広く関心を持つこと、今後どのような学びを修めていきたいかのヒントを得、領域選択やゼミ選択に活かすことである。		
授業概要	本講義は、国際コミュニケーション学科所属の教員が、それぞれの専門に関する地域や研究分野に関する導入的な議論を行い、受講生が今後どのような学びを修めていきたいかについて、ヒントを提供するものである。「国際」コミュニケーションを学ぶことは、必ずしも外国の言語や文化だけを学ぶことを意味せず、日本の言語や文化の特徴や面白さを再発見することでもある。この講義を通じて、受講生は、異文化への理解力と共感力を身につけると同時に、日本や自分たちが住んでいる地域に対する関心を改めて深めるきっかけを得てほしい。 【SDGs：1, 4, 5, 10, 11, 16, 17】		
授業計画	① 国際コミュニケーション学科への導入と比較文化（1）：宗教文化（川上新二） ② 比較文化（2）：社会組織（川上新二） ③ 日本のことばの創造性と魅力（村中菜摘） ④ 文化の受容について考える（村中菜摘） ⑤ ことばの科学とコミュニケーション（1）（大澤聡子） ⑥ ことばの科学とコミュニケーション（2）（大澤聡子） ⑦ ことばと文化の日韓比較（孫ミギョン） ⑧ 外国人と一緒に働くコミュニケーションの取り方について（孫ミギョン） ⑨ Z世代における日中間の相違について（王張璋） ⑩ 問題解決のプロセス（王張璋） ⑪ 英語の言葉遊び：英語で詩を読んでみよう（鈴木辰一） ⑫ Cross-cultural Communication Breakdowns: Causes and Solutions (Cotten, Randall) ⑬ 外国（アメリカ）の歴史を学ぶということ（藤田怜史） ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響（長谷川旭） ⑮ Diversity, Inclusion, Sustainabilityを考えるために（鈴木辰一） ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：関心のある国際ニュースに触れておく。 復習：各授業に関するメモを整理し、まとめておく。関心を持った用語や出来事、ニュースに関する調査を行う。		
評価方法	授業態度・出席状況（50％）：授業の各回ごとに与えられる課題を提出する。課題に対して各回ごとに採点（10点満点）し、その合計を50点換算する。各回の採点基準は授業ごとに提示する。 期末レポート（50％）：最も関心を持った授業・テーマに関するレポートを執筆する。レポートのテーマや分量については、各担当教員が指示する。		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし、適宜紹介する。		

科 目 名	日本文化論 Japanese Cultural Studies	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担 当 者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、日本人の精神文化の特徴を学ぶことで、我々の最も身近にあって一生付いて回る「心」の側面から日本人の特徴を客観的に理解することを目的とする。これによって自己評価を高め、さらに求められるものは何かを考えて行動に移すことで、日々の悩みや生きづらさに向き合い、ひとりひとりがよりよい生き方を模索する方法を見つめられるようになることを到達目標とする。同時に、自分を知ることによって他者を理解し、よりよい人間関係の構築のヒントを見つめられることも到達目標とする。		
授業概要	日本人の精神文化を切り口に日本文化について考える。日本人のものの考え方の特徴を文化的側面から自覚することは、今後のよりよい生き方へとつながる作業である。具体的には、日本人の精神文化の代表的な特徴として「もののあはれ」「無常」「義理と人情」「粋」について、主に日本文学の立場から私たちの思考の型（癖）を認識する。「もののあはれ」では『源氏物語』、「無常」では主に『方丈記』および『徒然草』から、「義理と人情」では近松門左衛門の浄瑠璃作品、「粋」では九鬼周造『粋の構造』の考えを基本に近松作品を取り入れ、日本人の精神文化の魅力および改善点を考え、よりよい生き方を提案する。 【SDGs：4、10】		
授業計画	① ガイダンス、日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（１） ② 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（２） ③ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（３） ④ 日本人の精神文化の特徴①「もののあはれ」（４） ⑤ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（１） ⑥ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（２） ⑦ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（３） ⑧ 日本人の精神文化の特徴②「無常」（４） ⑨ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（１） ⑩ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（２） ⑪ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（３） ⑫ 日本人の精神文化の特徴③「義理と人情」（４） ⑬ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（１） ⑭ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（２） ⑮ 日本人の精神文化の特徴④「粋」（３） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	【自学科学生の場合】 出席状況・受講態度４０％、授業時に書いてもらうメモ２０％、定期試験４０％ 【他学科学生の場合】 出席状況２０％、授業時に書いてもらうメモ４０％、定期試験（レポート）４０％		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科 目 名	英語コミュニケーションⅡ English Communication Ⅱ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	The objectives of this course are for students to further develop practical communication skills for everyday English conversations. The course will build on foundation speaking and listening skills learned in the first semester. Students will also learn more about American and British customs and culture and be encouraged to ask more questions about their interests in other countries.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 The students should by now be able to speak about familiar topics and the second semester course will expect students to give longer answers, be able to keep a conversation going and show enthusiastic listening skills. The course will focus on building on discussion skills and giving and reacting to opinions. 【SDGs：4】		
授業計画	① Orientation. Review and icebreaker activities. ② Class Facebook. Making small talk. Backchanneling. ③ Personal motto. English proverbs. Expressing opinions. ④ Tall tales. Tell short stories with sequencers. Refer back to events in a story. ⑤ Keepsakes. Show and tell. Using past tense and present perfect tense. ⑥ Speaking assessment 1, keepsakes individual presentation. ⑦ Team spirit. Making suggestions. Agreeing and disagreeing. ⑧ Speaking assessment 1. Review of Units 1-8. ⑨ Class cookbook. Describing foods and giving cooking instructions. ⑩ Business venture. Brainstorm and describe a new business. Present ideas. ⑪ Job interview. Describing job requirements. Interview/ee role plays. ⑫ TV preview. Create and act out a dramatic scene. ⑬ Public opinion. Create and discuss dilemmas and hypothetical situations. ⑭ Mini debate. Plan and defend an argument. Hold mini debates. ⑮ Speaking assessment 2. Review of all units. ⑯ End of term examination.		
予復習等	【予習】Weekly vocabulary lists. 【復習】Speaking assessment 1 and 2.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. Week 15 speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Active Skills for Communication Book 2. HEINLE CENGAGE learning. Sandy, Kelly.		
参考書	なし		

科 目 名	初級中国語Ⅱ（Ａクラス） Basic ChineseⅡ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語の初心者向きの授業である。中国語の発音や基礎文法に慣れることを目指す。中国語の発音は日本語と違って、独特な声調があるため、まずピンインや声調をしっかりと練習し、中国語の発音に慣れるように頑張ってもらいたい。中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけながら、中国の文化や言葉表現の習慣に触れていく。一年間を通して「初級中国語Ⅰ、Ⅱ」で中国語検定資格の準4級あるいは4級を取得できるレベルを目指す。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。テキストに沿って、発音練習や文法の説明、練習問題などを行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習を繰り返す。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 前期の復習 ② 第11課 母より背が高いです。 ③ 第12課 中国へ行ったことがあります。 ④ 第13課 手紙を書いています。 ⑤ 第14課 いつ来たのですか。 ⑥ 第15課 英語ができます。 ⑦ 第16課 15課を学び終わりました。 ⑧ 第17課 母が送ってくれました。 ⑨ 第18課 中国語が聞いて分かります。 ⑩ 第19課 走るのが速いです。 ⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています。 ⑫ 第21課 本をたくさん読んでください。 ⑬ 第22課 中国へ帰ります。 ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回のミニ練習に備える。		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する。『楽しく学ぼう やさしい中国語（基礎編）』郁文堂出版社。著者：張慧娟、王武雲、朱藝 2,500＋税		
参考書	なし		

科 目 名	初級中国語Ⅱ（Ｂクラス） Basic ChineseⅡ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	王 武云	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	前期で学習した中国語の基礎の上に、中国語の基本的な表現力を向上させる。後期は会話に重きを置いて進めていくが、基本的文法や文型を理解したうえで、初級レベルの中国語を話すことができるようになることを目指す。		
授業概要	前期と同じように、毎回、前回の授業で学習した本文についての小テストをする。少しずつ中国語の会話ができるようになってきて楽しくなるから、前期よりさらに頑張ってもらいたい。 【SDGs：4, 16】		
授業計画	① 前期の復習 ② 第11課 母より背が高いです ③ 第12課 中国へ行ったことがあります ④ 第13課 手紙を書いています ⑤ 第14課 いつ来たのですか ⑥ 第15課 英語ができます ⑦ 第16課 第15課を学び終わりました ⑧ 第17課 母は日常用品を送ってくれました ⑨ 第18課 中国語を聞いて分かります ⑩ 第19課 走るのが速いで ⑪ 第20課 彼はフランス語を教えています ⑫ 第21課 本を多く読むように ⑬ 第22課 彼はもうすぐ中国へ帰ります ⑭ 復習 ⑮ 中国語の発表会 ⑯ 定期試験		
予復習等	予習】授業前習う予定の内容を目を通して、その説明を理解しておくこと。 【復習】小テストの準備をしておくこと。		
評価方法	出席状況20%、小テスト40%、試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	前期使った教科書の後半を引き続き使用する		
参考書	授業の中で随時紹介する		

科 目 名	初級韓国語Ⅱ Basic Korean Ⅱ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は、韓国語の文字であるハングルの読み書きと簡単な韓国語会話の習得を目標とする。「初級韓国語（Ⅰ）」の学習の上に、実践的な韓国語能力を身につけるために必要な「読む、聞く、書く、話す」の四つの技能に関する基礎をさらに習得する。 ハングルを確実に読むことができ、書くことができるようになること、さらに韓国語の簡単な文章が発話できるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】 韓国語の文字（ハングル）の読み方、書き方だけではなく、言語にまつわる韓国文化についても理解できるように授業を進める。前半では文字と発音の学習に力点をおき、後半では助詞の使い方や叙述・疑問・否定・尊敬などの用言活用を中心に学習する。授業には主体性と積極性を発揮して臨んでほしい。 【SDGs：4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス 1課 일본 사람이예요.（日本人です） ② 2課 언니하고 여동생이 있어요.（姉と妹がいます） ③ 3課 하라주에서 쇼핑해요.（原宿で買い物します） ④ 4課 친구 생일 파티를 했어요.（友達の誕生日パーティをしました） ⑤ 5課 만두를 드세요.（餃子を召し上がって下さい） ⑥ 6課 한국에 가고 싶어요.（韓国に行きたいです） ⑦ 7課 사슴을 보러 가요.（鹿を見に行きましょう） ⑧ 8課 도서관에서 숙제하고 있어요.（図書館で宿題をしています） ⑨ 9課 음악을 들을 거예요.（音楽を聴くつもりです） ⑩ 10課 운전할 수 있어요?（運転できますか） ⑪ 11課 몸이 아파서 못 갔어요.（具合が悪いから行けませんでした） ⑫ 12課 양이 많으니까 같이 먹어요.（量が多いから一緒に食べましょう） ⑬ 13課 천천히 골라 보세요.（ゆっくり選んでください） ⑭ 14課 축의금을 내거나 선물을 해도 돼요.（ご祝儀を出すかプレゼントをしてもいいです） ⑮ 15課 회원 등록을 하고 싶은데요.（会員登録をしたいのですが） ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課ごとに新出語彙を予め予習しておくこと。 【復習】小テストがあるので必ず復習しておくこと。		
評価方法	発表１０％、提出物及び授業態度２０％、小テスト３０％、定期試験４０％(授業回数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の単位を履修していること。		
教科書	『ステキな韓国語 初中級』、柳蓮淑、金秀美、朴玉珠（著）、社会評論社		
参考書	なし		

科 目 名	日本語表現法Ⅱ Japanese Composition Ⅱ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションにおける話しことばの重要性を認識し、相手や場面に応じて適切なことば遣いを選択できるようになること、話し手の気持ちをくみ取った話の聞き方、相づちの打ち方などができるようになることを目的とする。特に適切な敬語の使い方を中心に、丁寧語・改まり語などを実践的に学ぶことで、実生活において、自分の置かれた場面、相手の立場や状況に応じた自然で好印象なことば遣いができるようになることを到達目標とする。		
授業概要	ことばの４機能である「読む」・「書く」・「話す」・「聞く」のうち、本講義では「話す」・「聞く」ことを中心に扱う。特に社会人として必須の敬語の習得に力を入れ、ロールプレイなど実践的な学習方法を取り入れ、自然に適切なことば遣いが身につくようにする。さらに、面接試験などの緊張した場面に身を置いた際にも、自分の言いたいことを的確に伝えることができるよう、話の構成技術も習得する。人前で話すことが苦手な方も自身がつき、より積極的になれるよう指導する。また「聞く」ことは「話す」以上に重要であるため、技術だけでなく、話し手の内面を思いやる表現方法についても学ぶ。 【SDGs：4、10】		
授業計画	① ガイダンス、コミュニケーション能力の確認 ② コミュニケーションの中のことばの重要性を再認識する ③ あいさつ表現 ④ 導入ロールプレイ ⑤ 発音・発声、語尾・話しぐせ ⑥ 発話内容のまとめ方、明確な伝え方 ⑦ 敬語の必要性、敬語の種類 ⑧ 敬語のロールプレイ（１） ⑨ 敬語のロールプレイ（２） ⑩ 敬語のロールプレイ（３）発表および講評 ⑪ 話の構成技術を学ぶ（１） ⑫ 話の構成技術を学ぶ（２） ⑬ 話の構成技術を学ぶ（３）成果発表 ⑭ 効果的な話の聞き方（１） ⑮ 効果的な話の聞き方（２） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度４０％、演習・発表への取り組み３０％、定期試験３０％		
履修条件	なし		
教科書	『コミュニケーション技法』／編著：プレゼンテーション学研究会／出版：ウィネット		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		

科 目 名	フランス語Ⅱ French Ⅱ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Bonjour ça Va?・・・とフランス語であいさつしたり、笑顔で会話ができる自分をイメージできる授業になるように、みなさんの質問にもていねいに答えていきます。1年目を終わる頃にフランス語検定試験5級・4級にトライできる文法力と表現力を身につけられる内容です。みなさんの日常生活をフランス語で説明できる単語力のために、作文練習もオリジナルで作りました。楽しくハッピーな気持ちではじめてのフランス語学習を進められるように毎回工夫していきます。		
授業概要	現在形、未来形、過去形を全て学ぶことで、表現力は確実にアップしていきます。発音も繰り返し練習でより自然となります。初級文法の仕上げとしてのフランス語作文。初級会話のまとめとしてのおかいもの表現や自己紹介文の習得。On ne fait pas d'omelette sans casser des œufs、“たまごをわらないとオムレツはつくれない”ように、みなさんの勇気のたまごを育てて、おいしいフランス語会話オムレツをいっしょに作っていききたいと思っています。たくさんお話していきましょう。 【SDGs：4,9】		
授業計画	① フランス語Ⅰの復習 ② フランス語のさまざまな疑問表現と否定表現〔SDGs：⑨トピックス紹介〕 ③ 中性代名詞〔SDGs：④トピックス紹介〕 ④ フランス語の時制① 現在形 ⑤ フランス語の時制② 過去形 ⑥ フランス語の時制③ 未来形 ⑦ フランス語検定試験問題を使って、時制の復習 ⑧ フランス語検定試験問題を使って、形容詞、副詞の復習 ⑨ 比較級、最上級 ⑩ フランス語を使ったゲームを作ってみよう ⑪ 日記をフランス語で書いてみましょう ⑫ 条件法、受動態、ジェロンディフ ⑬ フランス語検定試験問題4級レベルにトライ + 詳しい解説 ⑭ 〔SDGs⑨〕岐阜県の産業、文化、伝統をフランス語で紹介してみましょう ⑮ フランス語Ⅱのまとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	フランス語に少し慣れてきた頃です。なので辞書をさらに活用して熟語を覚えていきましょう。予習15分 単語・熟語暗記15分 復習20分 音声確認15分 音読15分		
評価方法	出席状況及び授業態度：25% 小テスト：15% 定期試験：60%		
履修条件	なし		
教科書	「オン・デマール」 古賀健太郎 駿河台出版社		
参考書	ベーシッククラウン仏和・和仏辞典がいいと思いますが、すでに家にある場合はその仏和辞典（紙の辞書）。		

科 目 名	サステイナブル社会論 Studies in Sustainable Societies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	講義
担 当 者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「サステイナブル(sustainable)社会」とは、地球の環境、平和や公正が次の世代にも保たれ、継承されていくような社会を意味する。すなわち、それは、人類がこの地球上で暮らし続けていくために形成していかなければならない社会のことである。2015年には、国連総会において、このサステイナブルな社会を実現するための具体的な目標として、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が提唱された。本授業の目的は、このSDGsの具体的な目標を学ぶことで、私たちが目指すべきサステイナブル社会についての理解を深めることである。		
授業概要	本講義では、持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)が掲げる17の目標と169のターゲットについて詳細に解説する。各回の講義において、SDGsが掲げる具体的な目標とターゲットの内容を理解することを通じて、現在の世界が目指すべきサステイナブル社会の全体像を明らかにする。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 目標1「貧困をなくそう」目標2「飢餓をゼロに」 ③ 目標3「すべての人に健康と福祉を」 ④ 目標4「質の高い教育をみんなに」 ⑤ 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」 ⑥ 目標6「安全な水とトイレを世界中に」 ⑦ 目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 ⑧ 目標8「働きがいも経済成長も」目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」 ⑨ 目標10「人や国の不平等をなくそう」 ⑩ 目標11「住み続けられるまちづくりを」目標12「つくる責任 つかう責任」 ⑪ 目標13「気候変動に具体的な対策を」 ⑫ 目標14「海の豊かさをまもろう」 ⑬ 目標15「陸の豊かさを守ろう」 ⑭ 目標16「平和と公正をすべての人に」 ⑮ 目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」 ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べること		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『SDGs（持続可能な開発目標）』著・蟹江憲史／出版：中央公論新社 ISBN 978-4121026040		
参考書	講義中において適宜指示する。		

科 目 名	グローバルゼーション論 Globalization Studies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期） 【他学科専門科目】〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は、グローバルゼーションが何を意味し、それによって世界がどう変わった（変わっている）かを理解することを目的とする。また、グローバルな視点を涵養し、それによって異文化への共感力を高めることを目的とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 １：受講生は、グローバルゼーションという現象の意味を理解できる。 ２：受講生は、グローバルゼーションがもたらした好影響と悪影響を考察できる。 ３：受講生は、グローバルな視点を身につけ、異文化への共感力を高めることができる。		
授業概要	グローバルゼーションとは、ヒト・モノ・カネが国境を越えてより自由に移動できるようになり、世界がひとつにつながりつつある現象を意味する。本講義では、世界がいかにつながっているかという問題を歴史的に振り返る。それに加えて、諸外国の状況について見ることで、世界はひとつにつながりつつも、多様性を内包していることを確認し、またグローバルゼーションがもたらしたさまざまな影響を検討する。最後に、日本や岐阜というローカルな地域の中に、「世界」がどう存在しているか、またその逆についても見てみたい。なお、本講義は受講生にプレゼンを多く行ってもらう。積極的な参加、意見交換を期待する。 【SDGs：4, 5, 10, 11, 16, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑬, ⑭】		
授業計画	① イントロダクション：グローバルゼーションってなに？ ② 世界はつながっている（１）：古代の世界の人・モノ・金の移動 ③ 世界はつながっている（２）：世界をめぐる食べ物 ④ 世界はつながっている（３）：幕末から明治維新のグローバル・ヒストリー ⑤ プレゼンⅠ：人とモノの ⑥ 世界各地を見てみよう（１）：アメリカ合衆国 ⑦ 世界各地を見てみよう（２）：タイ文化圏における価値観と地域差 ⑧ 世界各地を見てみよう（３）：七大陸の文化と環境 ⑨ プレゼンⅡ：旅行計画を立ててみよう ⑩ グローバリゼーションの諸問題（１）：人とモノの移動の活性化 ⑪ グローバリゼーションの諸問題（２）：文化の均質化と格差の拡大・固定化 ⑫ プレゼンⅢ：グローバルゼーションの利点と欠点 ⑬ 日本における世界・世界における日本（１） ⑭ 日本における世界・世界における日本（２） ⑮ プレゼンⅣ：岐阜（故郷）を世界に発信しよう ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：世界全体のニュースに関心を持ち、可能な限り触れておく。 復習：講義で扱った話題について自分で調査を行い、プレゼンの準備をする。		
評価方法	【自科学生の場合】 出席状況・授業態度（30%）、プレゼン（30%）、期末レポート（40%） 【他科学生の場合】 出席状況・授業態度（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	なし。適宜紹介する。		

科 目 名	English Conversation English Conversation	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course aims to help students move beyond basic English expressions and move toward using more natural, native-like speaking skills. Some of these skills include speaking for longer turns, having conversations that use few questions, and increasing knowledge of natural expressions. Students will also learn natural reactions to use as they listen during conversations -- an important function of listening as an active participant. Speaking tests will be held twice during the semester so that students can show how well they have mastered these skills.		
授業概要	Students will spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. Vocabulary quizzes will be given at the end of each unit. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year. 【SDGs：4, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑥⑨】		
授業計画	① Unit 5 (Part 1): Talking about breaks ② Unit 5 (Part 2): Free time activities ③ Unit 5 (Part 3): Current & future hobbies ④ Quiz / Unit 7 (Part 1): Recent meals ⑤ Unit 7 (Part 2): Food likes & dislikes ⑥ Unit 7 (Part 3): Exotic foods & eating out ⑦ Quiz / Practice for Speaking Test #1 ⑧ Speaking Test #1 ⑨ Quiz / Unit 4 (Part 1): Travel experiences ⑩ Unit 4 (Part 2): Future travel ideas ⑪ Unit 4 (Part 3): Planning a trip ⑫ Quiz / Unit 8 (Part 1): Five years later ⑬ Unit 8 (Part 2): Discussing life issues ⑭ Unit 8 (Part 3): Dream jobs ⑮ Quiz / Practice for Speaking Test #2 ⑯ 定期試験 (Speaking Test #2)		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	Participation (20%); Vocabulary quizzes & homework (30%); Speaking tests (50%)		
履修条件	「英語コミュニケーションⅠ」を受講をすること		
教科書	Conversations in Class (3E). Jerry Talandis Jr. and Bruno Vannieu. Alma Publishing, Kyoto. 2015.		
参考書	http://www.cic-multimedia.com/		

科 目 名	メディアイングリッシュ I Media English I	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は世界のニュース映像をとおして、総合的な英語能力に加えて国際ニュースへの関心と理解をふかめることを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生はリスニングやスピーキングを含めた総合的な英語能力を向上させることができる。 2：受講生は世界のニュースに触れることで、国際的な視野を持ち、異文化に対する関心と理解を深めることができる。		
授業概要	本授業では、フランスの通信社AFPのニュース映像を利用し、ネイティブの生きた英語に触れることで、リスニングやスピーキング能力を含めた総合的な英語能力の向上を目的とする。また副教材を用いてTOEICなどのポイントについても触れる予定である。関心の持ったニュース（授業で扱ったものに限らない）の内容や感想についてまとめたエッセイを書き、それを受講者同士で読み合わせて英語表現や内容について論評する機会も設けたい。 【SDGs：4.10.16.17】		
授業計画	① Guidance (self-introduction, etc) ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ mid-term report, peer review 1 ⑦ unit 5 ⑧ unit 6 ⑨ unit 7 ⑩ unit 8 ⑪ mid-term report, peer review 2 ⑫ unit 9 ⑬ unit 10 ⑭ unit 11 ⑮ unit 12 ⑯ 定期試験（ないしレポート）		
予復習等	予習：指定されたユニットのテキストを読み、単語を辞書で調べておく 復習：聞き取りなどで聞き取れなかったフレーズを中心に繰り返し聞き、シャドーイングを行う		
評価方法	出席状況・授業態度（30％）、課題（20％）、定期試験（50％）		
履修条件	なし		
教 科 書	『AFP World News Report 7』／著：穴戸真ほか／成美堂		
参 考 書	なし。適宜紹介する。		

科 目 名	パラグラフライティング Paragraph Writing	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業では、自分の考えや情報を分かりやすく、正確に伝えるための英文を書く基礎力を身につける。①英文ライティングの典型的なパターンを理解し、目的に応じた効果的な表現ができること、②英語の規則と構造を理解し、正確な英文が書けること、③まとまりのあるパラグラフが書けることの3つを到達目標とする。		
授業概要	本授業では4技能を使った練習をとおして段階的に、まとまりのある英文を論理構成にしたがって書けるようにする。目的別に書かれた英文を読み、それぞれの目的に応じた英文構成の典型的パターンをまず理解する。また例文から、説得力、論理性、一貫性、深みを文章に加味する表現を発見し、語彙と表現力を身につけ、与えられた目的に対して正確な英文で、効果的な論理展開をもつ英文を1つのパラグラフとして仕上げる。 【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：⑦⑨】		
授業計画	① What is a Paragraph? パラグラフとは何か ② Narration 出来事を語る ③ Process 手順を説明する ④ Description of Feelings 感情を描写する ⑤ Description of People 人を描写する ⑥ Description of Places & Locations 場所を描写する(1) ⑦ Description of Places & Locations 場所を描写する(2) ⑧ Definition 人物や物事を定義する(1) ⑨ Definition 人物や物事を定義する(2) ⑩ Cause & Effect 原因と結果(1) ⑪ Cause & Effect 原因と結果(2) ⑫ Problems & Solutions 問題と解決策(1) ⑬ Problems & Solutions 問題と解決策(2) ⑭ Your Opinion－Agree 賛成意見を述べる ⑮ Your Opinion－Disagree 反対意見を述べる ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み込み、問題を解いておく。 【復習】重要項目をまとめる。課題を見直し、復習する。		
評価方法	出席状況・授業態度20％、課題40％、定期試験40％		
履修条件	なし		
教 科 書	『Smart Writing』 /著：仲谷都 他/出版：成美堂		
参 考 書	授業で指示する。		

科 目 名	インテンシブリーディング Intensive Reading	単 位 数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業の目的は、比較的長い英語の文章を精確に読解できるようになることと、世界で英語が話されている国々の諸問題に関する知識を深めることにある。 （１）文法事項を確認しつつ、文・段落・文章全体の構成を確認しながら、少し難度の高い長文を精確に読解する力をつける。 （２）本文中に登場する抽象度の高い単語を、語形成の仕組みを踏まえて覚える。 （３）国際社会の抱える諸問題について自分の意見が持てるようになる。		
授業概要	（１）各Chapterで取り上げられる国の基礎知識を確認する。 （２）Vocabularyにある単語の意味を理解するだけでなく、語形成の知見を得ることで、有機的に単語を獲得することができるようにする。 （３）Comprehension Questionsに答えることで本文の概要を把握する。その際、文の組み立てにも注目する。 （４）本文をスラッシュリーディングの手法を使つて読むが、文法を的確に押さえながら精確に読むよう心掛ける。 【SDGs：1，2，10，16】		
授業計画	① ガイダンス Chapter 1～3の概要の解説 ② The UK（１） ③ The UK（２）/Ireland（１） ④ Ireland（２） ⑤ Nigeria（１） ⑥ Nigeria（２）/South Africa（１） ⑦ South Africa（２） ⑧ Australia（１） ⑨ Australia（２）/Singapore（１） ⑩ Singapore（２） ⑪ India（１） ⑫ India（２）/Jamaica（１） ⑬ Jamaica（２） ⑭ Canada（１） ⑮ Canada（２） ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】当該ChapterのComprehension Questions、Vocabularyの問題に答えておく。また、本文にスラッシュを入れて読んでおく。 【復習】授業中で学んだ単語や文法事項を整理する。		
評価方法	授業参加度（予習課題の質問に答えるなど）30%、期末試験70%		
履修条件	なし		
教科書	『Global Perspectives in the English-speaking World: Past and Present』松柏社		
参考書	授業中に指示する。		

科 目 名	英語のしくみⅠ English GrammarⅠ	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。本授業では英文法の理解を通して英語コミュニケーション能力の向上につなげることを目的とする。特に、これまでに学修した英文法を単なる知識としてではなく、①コミュニケーションに使える文法として理解し、②英語の感覚を身につけることを目標とする。		
授業概要	本授業では、英語学修者からコミュニケーションに「使える」実用的な文法書として定評のあるGrammar in Useを使用し、高校までの英文法を復習すると同時に、多くの実用的な用例を見ながら、自然な文脈や会話の中での使用法を理解する。テキストは平易な英語で解説され、練習問題も全て英語で書かれているものを使用するため、毎回の予習が求められる。授業ではテキストの文法解説に加え、英語という言語の「本質的なしくみ」について、さらに掘り下げた解説を行う。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② Present and Past（１） 現在形と過去形 ③ Present and Past（２） 現在形と過去形 ④ Present Perfect（１） 現在完了形 ⑤ Present Perfect（２） 現在完了形 ⑥ Present Perfect and Past 現在完了形と過去形 ⑦ Future（１） 未来表現 ⑧ Future（２） 未来表現 ⑨ Modal Auxiliary（１） 法助動詞 ⑩ Modal Auxiliary（２） 法助動詞 ⑪ Subjunctive（１） 仮定法 ⑫ Subjunctive（２） 仮定法 ⑬ Passive（１） 受動態 ⑭ Passive（２） 受動態 ⑮ Review ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】重要事項をまとめる。		
評価方法	出席状況・授業態度30%、定期試験70%		
履修条件	なし		
教科書	Grammar in Use Intermediate / Raymond Murphy / Cambridge University Press		
参考書	授業で指示する。		

科 目 名	社会調査論 Theory and Methods of Social Research	単 位 数	2
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	必選区分	必修
担 当 者	王 武云	科目区分	講義
		教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義では、社会調査のしくみや考え方、実施方法と実例について学び、良い調査とそうではない調査を的確に見分ける力を養うとともに、調査の方法やデータの解釈の仕方、結果の発表の仕方について基礎力を養成することを目的とする。本講義をとおして、あるフィールドで課題を見つけその課題を探究するために必要な基礎力を養う。到達目標は、社会調査に関する基礎的知識を身につけるとともに、社会調査データを正しく評価・利用するための能力を身につける。		
授業概要	本講義では、社会調査のしくみや考え方、実施方法と実例について学ぶ。また、実際のデータを観察し、日本社会の変化や今後の動向について理解を深める。受講者は、社会調査の実際についての文献を読み、概要についてグループ発表を行う。その文献の元になった論文を概観し、社会調査の実際について理解する。また、アンケート調査やインタビュー調査、フィールドワークの実施方法について学び、良い調査とそうではない調査を的確に見分ける力を養うとともに、調査を企画・実施する基礎力をつける。グループ発表機会を設ける。 【SDGs：1, 3, 4, 5, 10, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑬】		
授業計画	① ガイダンス、社会調査とは何か ② さまざまな社会調査1 ③ さまざまな社会調査2 ④ アンケート調査 ⑤ インタビュー調査 ⑥ 参与観察とフィールドワーク ⑦ データ収集と活用 ⑧ データ分析の実際 ⑨ 調査地点による分類（地域調査、全国調査、国際比較調査等） ⑩ 調査時点による分類（クロスセクション調査、継続調査、パネルサーベイ） ⑪ 調査報告書の作成法 ⑫ データから読み解く日本社会 ⑬ データから読み解く岐阜 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表 ⑯ 定期試験		
予復習等	指定されたテキストの関連部分を読んでおく。		
評価方法	【自学科学生の場合】 出席状況・授業態度 30%、グループ発表20%、期末試験50% 【他学科学生の場合】出席状況・授業態度 30%、グループ発表20%、期末試験50%		
履修条件	特になし		
教科書	『社会調査のしくみと考え方』原純輔著 放送大学叢書		
参考書	『最強の社会調査入門—これから質的調査をはじめるときのために』前田拓也ほか編 ナカニシヤ出版		

科 目 名	近現代の世界 The Contemporary World	単 位 数	2
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	必選区分	必修
担 当 者	藤田 怜史	科目区分	講義
		教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義では、今われわれが生きているとされる近代・現代という時代が、そもそもどのような時代であるか、いわゆる前近代と呼ばれる時代と何が違うのかについて、理解を深めることを目的とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生は、世界史（主に西洋史）の概略を把握することができる。 2：受講生は、近代以降と前近代以前の違いについて理解できる。 3：受講生は、世界史の学びを通じて、異文化理解や多文化共生の考え方を身につけることができる。		
授業概要	本講義は、主に「近代」以降の西洋の歴史を概観し、近代および現代という時代がどのような特徴を持つ時代であるかについて理解を深めることを目的とする。主に西洋史を扱うことになるが、それは、近代と前近代を分かち思想の多く（個人主義や自由主義）が西洋において生まれたためである。個人の自由や平等をうたうこうした思想が今もなおわれわれの世界の思想的基盤をなしているのであり、差別の廃止や平等の推進が世界全体での政策目標として掲げられているのである。本講義をとおして、自分たちがいる世界がどのような道のりで築かれてきたかについて理解を深めてほしい。 【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】		
授業計画	① イントロダクション：「近代」とはなにか？ 世界史（西洋史）の時代区分 ② 宗教改革の時代 ③ 「ヨーロッパ」の拡大：大航海時代へ ④ 自由と専制のはざまの近世 ⑤ フランス革命と産業革命 ⑥ ブルジョワ社会の成立と国民統合 ⑦ 中・東ヨーロッパの再編と民族問題 ⑧ 帝国と植民地 ⑨ 植民地から独立・建国へ（南北アメリカ） ⑩ 現代アメリカの形成（南北アメリカ） ⑪ 2つの世界大戦 ⑫ 現代国際体制の成立と展開 ⑬ ヨーロッパ統合への道 ⑭ 現代科学・技術の光と闇 ⑮ 全体のまとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：事前配布資料がある場合、それを読んでおく。 復習：講義中にとったメモなどを整理し、簡単にまとめておく。わからなかった、関心を持った用語・出来事について自分で調査をする。		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、定期試験or期末レポート（60%）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』／著：小山哲ほか編著／ミネルヴァ書房 『論点・西洋史学』／著：金澤周作監修／ミネルヴァ書房		

科 目 名	英語圏文化・社会 Anglophone Culture and Society	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義の目的は、アメリカ合衆国が持つ様々な多様性を理解し、異文化に対する理解と関心を深めることである。具体的な到達目標は以下のとおり。 １：受講生は、アメリカの地理的広大さが多様性の土台となっていることを理解できる。 ２：受講生は、現在のアメリカの人種的・民族的・性的多様性を把握しつつ、その多様性が認められるまでの道のりがいかなるものであったかを説明することができる。 ３：受講生は、様々なテーマに関する調査・プレゼンを通じ、アメリカの多様性について関心を深め、発信することができる。		
授業概要	アメリカ合衆国は様々な意味で多様性の国である。アメリカは地理的広大さゆえに多様な自然・風土を持ち、それが産業や人びとの気質にさまざまな違いを生んでいる。アメリカは白人を中心とする国であるが、アフリカから連れてこられた黒人たちはアメリカ史を語る上では欠かせない存在であり、また近年アジア系やヒスパニック系の人びとの数も増えている。またひとくちに「白人」といっても、そこにはさまざまなエスニックがいる。女性や性的マイノリティもまた歴史的な抑圧に抵抗し、権利獲得が進んでいる。受講生には、こうしたさまざまな多様性が、現代アメリカの社会や文化にどのような好影響を与えているか、あるいはどのような問題をはらんでいるかを考察してもらいたい。 【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】		
授業計画	① インTRODakション：アメリカとはどんな国か ② プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査１ ③ プレゼンⅠ：アメリカの名物・名産品・観光地・流行に関する調査２ ④ アメリカの地理（１） ⑤ アメリカの地理（２） ⑥ プレゼンⅡ：アメリカの各地域の歴史、違いなどに関する調査 ⑦ アメリカ黒人の歴史（１） ⑧ アメリカ黒人の歴史（１） ⑨ プレゼンⅢ：奴隷制度、黒人差別、黒人文化に関する調査 ⑩ アメリカにおける移民（１） ⑪ アメリカにおける移民（２） ⑫ プレゼンⅣ：白人移民、日系、アジア系、ヒスパニック系移民に関する調査 ⑬ アメリカにおける女性運動と性的マイノリティ ⑭ プレゼンⅤ：男女平等憲法修正条項、中絶論争、同性婚などに関する調査 ⑮ まとめ：アメリカの多様性と、それに対する抵抗 ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：配布物がある場合、事前にそれを読んでおくこと。また複数回行われるさまざまな調査について準備をする。 復習：各講義で扱ったテーマに関するニュースや文献などに触れ、自身の調査に活かす。		
評価方法	出席状況・授業態度（20％）、プレゼン（30％）、期末レポート（50％）		
履修条件	なし		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『よくわかるアメリカの歴史』／著：梅崎透ほか編著／ミネルヴァ書房 『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』／著：遠藤泰生ほか編著／ミネルヴァ書房		

科 目 名	アジア文化論 Asian Cultural Studies	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	講義
担 当 者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本やアジアの文化を文化人類学の立場から学ぶことを通じて、価値の多様性を理解することを目指す。具体的には、学生が日本やアジアについて文化人類学による基礎知識を修得するとともに、多様な文化を理解するために文化人類学が提出してきた文化に対する見方、考え方を理解し、アジア各地の事例について文化人類学による見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、文化人類学という学問の特徴や文化の概念、フィールドワークの特徴等を学ぶ。次に、日本やアジア、とりわけ日本の隣国である中国や韓国での生活様式（文化）のなかから、婚姻、家族、親族、出自などをとりあげて、それぞれについて文化人類学による見方や概念を学ぶ。レポートや定期試験では、授業で学んだ文化、婚姻、家族、親族、出自などに関する文化人類学による基礎知識や見方を身につけているかを問うので、復習を欠かさないこと。 【SDGs：10, 16, 17】		
授業計画	① 文化人類学について ② 文化について ③ 婚姻（１）文化人類学が考える婚姻の概念 ④ 婚姻（２）アジアでの冥婚（日本、韓国、中国漢族） ⑤ 婚姻（３）アジアでの婚姻（日本、韓国、中国漢族） ⑥ 父と母 ⑦ 家族（１）文化人類学が考える家族の概念 ⑧ 家族（２）日本の家族 ⑨ 家族（３）日本の家族、韓国の家族、中国漢族の家族 ⑩ 出自（１）出自の概念親族 ⑪ 出自（２）中国漢族、韓国の場合：父系出自親族 ⑫ 出自（３）その他の地域の場合：母系出自、双系出自 ⑬ 出自（４）日本の場合 ⑭ 親族（１）親族の概念 ⑮ 親族（２）日本、韓国、中国漢族の場合 ⑯ 定期試験		
予復習等	配付されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は、学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート５０％、定期試験５０％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	『文化人類学入門』／著・祖父江孝男／出版・中央公論社（中公新書）		

科 目 名	中国語（文法・読解） Chinese（Grammar and Reading）	単 位 数	1
		必選区分	必修（中国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は中国語の初心者向きの授業である。会話の中で基本的な文法を解説すると同時に、ラフな話し言葉も教える。「初級中国語Ⅰ」、「初級中国語Ⅱ」と一緒に履修するとより早く中国語を覚える。受講者のレベルによって教え方を変えるので、初心者はよく使う文法でフレーズを作れること、意欲の高い人は中国語検定試験4級合格を到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外出経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。退屈な文法と読解を日常会話の中で分かりやすく解説する。理論だけではなく、会話の感覚で言葉を発しながら、文法に置き換えていく方法を取る。難しい文法だからこそ楽しい会話式で行う。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 発音の復習（第1課～第3課） ② 第4課 你贵姓？ ③ 第4課の文法と練習 ④ 第5課 你去哪儿？ ⑤ 第5課の文法と練習 ⑥ 第6課 我想喝普洱茶。 ⑦ 第6課の文法と練習 ⑧ 第7課 你喜欢什么？ ⑨ 第7課の文法と練習 ⑩ 第8課 中国队太厉害了！ ⑪ 第8課の文法と練習 ⑫ 中国語の歌 ⑬ 会話作成の練習 ⑭ 中国語検定の練習 ⑮ 前期の復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回のミニ練習に備える。		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科 目 名	韓国語（文法・読解） Korean（Grammar and Reading）	単 位 数	1
		必選区分	必修（韓国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（１年後期）	科目区分	演習
担 当 者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「初級韓国語Ⅰ」の学習の上に、学生が韓国語の基本となる文法事項を習得し、韓国語の基本的な表現ができるようになること、基本的な読解ができるようになることを目的とする。具体的には、授業で学ぶ文法事項を習得して、授業やテストで示される文章が読み取れるようになることと目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり。】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じられる点については時間をとって説明する。韓国語は漢字語も多く、文法も日本語と似ている点があるため、日本人が韓国語を書いたり話したりすると、日本語式韓国語になりやすいので、韓国語での表現を身につけるようにする。受講者には発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。 【SDGs：10, 17】		
授業計画	① ～です。～ではありません。 ② あります。います。ありません。いません。 ③ ～します。～しますか。 ④ ～ですか。 ⑤ 何ですか。いかがですか。 ⑥ ～なさいます。～してください。～しましょう。 ⑦ ～を～します。 ⑧ どこに行きますか。 ⑨ 時間、数。何が好きですか。 ⑩ ～しましょうか。～でしょう。 ⑪ ㄹ不規則変化 ⑫ 過去形、ㄹ不規則変化。 ⑬ ～して～（１）고 ⑭ ～して～（２）아/어/여서 ⑮ ～から～まで。～だけれども。～しないでください。 ⑯ 定期試験		
予復習等	プリントの中から次回の授業で学ぶ範囲の単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験５０％、出席状況及び授業態度５０％		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	「初級韓国語Ⅰ」で使用した教科書		

科 目 名	日本語教授基礎理論 Introduction to Japanese Language Teaching	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	母語話者として無意識に使用している日本語を客観的にとらえ、外国人に日本語を教えるために知っておくべき「言語としての日本語」の特徴を理解できることを目的とする。日本語を教える際に必要な日本語の基礎知識を身につけた上で、実際に日本語を教える場でそれに応用し、自分なりに活かせるようになることを到達目標とする。		
授業概要	本講義では、主に日本語教育に全く携わったことのない方を対象とし、外国人に日本語を教える際に必要なさまざまな日本語についての基礎知識、他の言語と比較してどのような特徴をもっているのかを概略的に学ぶ。加えて、日本語教育についての考え方の背景となっている基礎知識も学ぶ。そのことにより、実際に日本語を教える際、外国人学習者から投げかけられるさまざまな質問に備え、自分の教え方に役立てることができれば幸いである。 【SDGs：4、10】		
授業計画	① ガイダンス、外国人に日本語を教えることについて ② 言語としての日本語（1） ③ 言語としての日本語（2） ④ 日本語の音声（1） ⑤ 日本語の音声（2） ⑥ 日本語の音声（3） ⑦ 日本語の文法（1） ⑧ 日本語の文法（2） ⑨ 日本語の文法（3） ⑩ 日本語の文法（4） ⑪ 日本語の文法（5） ⑫ 日本語の文字・表記、日本語の語彙 ⑬ 社会言語学（1） ⑭ 社会言語学（2） ⑮ 日本語教育と心理学 ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40％、定期試験60％		
履修条件	なし		
教 科 書	『新・はじめての日本語教育』／監修：高見澤孟／出版：アスク出版		
参 考 書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科 目 名	日本文学概論 Japanese Literature	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（1・2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	さまざまな時代の日本文学作品を、時代背景や表現された人間の内面を掘り起こすことで広く人間の理解につなげ、実生活を心豊かでよりよいものにするきっかけをつかむことを目的とする。各時代の作品の成立の背景や特徴を丁寧に味わいながら、作者の思いや登場人物の心の動きを考えることで、私たちの心に存在するさまざまな感情に気づくことで、生きることについて自ら考え、自己および他者を理解する手段として日本文学作品を活用できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	上代・中古・中世・近世・近代の日本文学作品の中から、学生の皆さんに基本的な教養として知っておいてもらいたいものを厳選して取り上げ、作品世界に反映された人間のさまざまな心の側面を認識するという目的で構成されている。「難しい」という印象を抱かれがちな日本文学の世界だが、まずは身構えずにその世界を味わってみることで作品に興味を持ち、読書によって視野を広げ、感性を磨く若者が増えることを希望的目標とする。文学作品世界への認識を深め、人の心の動きについて考えることで、実生活において自己も他者も活かせる生き方を見出すきっかけにしてもらえるよう講義を進める。 【SDGs：4、10】		
授業計画	① ガイダンス、『万葉集』（1） ② 『万葉集』（2） ③ 和歌から物語へ（1） ④ 和歌から物語へ（2）、『源氏物語』（2） ⑤ 『源氏物語』（2） ⑥ 『新古今和歌集』（1） ⑦ 『新古今和歌集』（2） ⑧ 『徒然草』 ⑨ 浄瑠璃―近松門左衛門 ⑩ 日本文学の視点から、どう生きるかを考える ⑪ 夏目漱石（1） ⑫ 夏目漱石（2） ⑬ 夏目漱石（3） ⑭ 谷崎潤一郎（1） ⑮ 谷崎潤一郎（2） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40％、定期試験60％		
履修条件	なし		
教 科 書	プリントを配布する		
参 考 書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科 目 名	多文化共生社会論 Multicultural Society	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期） 【他学科専門科目】〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	総務省は多文化共生を「国籍や民族など異なる人々が、お互いの文化を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義している。この授業では多文化社会をめぐる基本的な概念の理解や日本の中での共生について考察し、多文化共生社会のあり方や日本社会の状況に照らして考えられることを到達目標とする。		
授業概要	世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。この授業では、多文化に関する基本的な概念や世界各地の多文化現状について学ぶ。また、外国人労働者は同時に生活者、地域住民でもあるという視点に立ち、外国人受け入れのために日本及び地域社会はどう変わるべきかについて考える。また、日本の多文化状況について理解を深め、日本における外国人差別問題や外国人労働者問題、国際交流や国際化がもたらす問題などさまざまな角度から考える。 【SDGs：3, 10, 11, 16】 【岐阜学関連の授業回：⑧、⑨】		
授業計画	① ガイダンス ② 文化と多文化社会 ③ 多文化社会の理解：概念、世界化、移住など ④ アメリカにおける多文化共生 ⑤ ヨーロッパにおける多文化共生 ⑥ 日本における多文化共生 ⑦ 韓国における多文化共生 ⑧ 岐阜県の多文化共生と外国人 ⑨ 多文化社会と人権 ⑩ 多文化社会の課題 ⑪ 多文化共生のまち：日本の事例 ⑫ 多文化共生のまち：韓国の事例 ⑬ グループ発表① ⑭ グループ発表② ⑮ グループ発表③ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】日頃のニュースに関心を持つこと 【復習】講義内容を復習しながら、関心を持ったテーマに関する調査を行う		
評価方法	【自学科学生の場合】出席状況・授業態度30％、グループ発表20％、定期試験（レポート）50％（授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない） 【他学科学生の場合】出席状況20％、コミュニケーションカード30％、定期試験（レポート）50％（授業回数の3分の1をこえて欠席した場合は評価の対象にならない）		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	適宜プリントを配布する		

科 目 名	観光概論 Tourism Studies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	宮道 利典	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	「観光（旅）」と社会生活や産業活動との関係を考察し、その経済的役割についての理解を深め、社会における意義をツーリズム産業の視点から考える。「観光」の間口は広いので、その「学びの間口の広さ」から観光を学ぶことを通して課題発見能力―「何が必要か」「何が課題か」、そして課題解決能力―「そのために何をすべきか」「どのようにすれば解決できるか」を創造的に考える力を養い、身に着けることの大切さを理解させる。		
授業概要	【担当者の実務経験：旅行会社41年間勤務において、法人営業・公務営業、海外旅行商品企画、航空仕入、法務、広報等業務、及び地域観光協会事務局長業務の経験あり】 「21世紀の成長産業であるツーリズム産業とはどのような産業か、観光とは何か、観光ビジネスの特性は何か」といった、観光を学ぶ上で習得しておく必要がある基本的な事柄を学んでいく。同時に、人々の観光に対する意識の変化を受けて、「観光ビジネスや観光地の現場で実際に起きていること」、そして今後の動きを見通しながら「観光ビジネスや観光地がどのような対応をしようとしているか」について理解を深めてもらう。また、岐阜県の豊富な観光資源を活かした観光戦略についても学んでいく。 【SDGs：3, 9, 11】 【岐阜学関連の授業回：④, ⑪, ⑬】		
授業計画	① オリエンテーション―ツーリズム産業の現状 ② 観光を学ぶ意義と観光の様々な効果 ③ 観光にかかわる言葉と観光のしくみ ④ 観光資源と観光対象-岐阜県の観光資源 ⑤ 観光産業の構成と特徴 ⑥ 様々な観光ビジネス―旅行業 ⑦ 様々な観光ビジネス―宿泊産業 ⑧ 様々な観光ビジネス―交通運輸業 ⑨ 様々な観光ビジネス―テーマパーク、スキー場、展示鑑賞施設、土産品業 ⑩ 観光と情報 ⑪ 観光政策と観光行政-岐阜県の観光推進計画 ⑫ 観光のマーケティング ⑬ 旅の歴史とこれからの旅行-サスティナブルツーリズム ⑭ 観光と国際経済・社会・文化―インバウンドと異文化理解、岐阜県のインバウンド観光 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】教科書の授業に該当する箇所をよく読んでおくこと。 【復習】授業で学んだことをふまえ、実際に「旅」に出て、自分の目で観光がどのように地域経済にかかわっているのか、人間形成にどんな影響を与えているのかを考えてみる。		
評価方法	定期試験（70％）、個人ワーク(20%)に出席状況等（10％）を加味して評価する。		
履修条件	なし		
教科書	『観光学基礎 観光に関する14章』/ 出版：株式会社 J T B 総合研究所		
参考書	なし		

科 目 名	第二言語習得論 Second Language Acquisition	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	小島 ますみ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本概論では、第二言語習得研究や英語教育学分野の諸議論を概観し、外国語の習得についての理解を深めるとともに、自らの英語学習へ応用できる力を養うことを目的とする。到達目標は以下である。1) 英語教育に関する現代的な諸議論を理解し、自ら論理的・批判的に考えることができる、2) 自分の意見を英語で表明し、ライティング力をつける、3) 日本人としてどのように英語に向き合うべきなのか考察し、主体的に英語学習に向き合うことができる。		
授業概要	本概論では、第二言語習得研究や英語教育学分野の諸議論を概観し、外国語の習得についての理解を深めるとともに、一般的な言語習得に関する諸言説を批判的に考察する。授業では、英語教育に関連したテーマでのエッセイ・ライティングや、受講生によるプレゼンテーションを行うなど、オンデマンドではあるが実践的に展開する。エッセイ・ライティングのテーマは、最近の英語教育改革に基づき、小学校英語教育の拡大についてと、AI時代の外国語学習の意義についてとする。期末課題として、自ら選んだテーマでの小論文を提出する。その小論文の構想について、プレゼンテーションを行う。 【SDGs:4, 9, 10, 16】		
授業計画	① ガイダンス・日本人と英語 ② 母語の影響と言語習得 ③ 年齢と言語習得 ④ 動機づけと言語習得 ⑤ 学習者要因と言語習得 ⑥ エッセイ・ライティング1：小学校英語教育について ⑦ パイリンガル教育について ⑧ 日本の学校英語教育 ⑨ グローバル化と世界の英語政策 ⑩ エッセイ・ライティング2：AI時代の外国語学習の意義について ⑪ ささまざまな教授法 1 ⑫ ささまざまな教授法 2 ⑬ プレゼンテーション準備 ⑭ 受講生によるプレゼンテーション1 ⑮ 受講生によるプレゼンテーション2 ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】エッセイ・ライティングや期末課題について、新聞・本などで調査する。プレゼンの準備をする。 【復習】エッセイや期末課題を仕上げる。		
評価方法	出席状況・授業態度 30%、英語エッセイ・ライティング30%、プレゼンテーション15%、期末課題25%		
履修条件	なし		
教科書	資料を配布する。		
参考書	『学校英語教育は何のため？』 江利川春雄ほか、ひつじ書房		

科 目 名	地域研究概論 Area Studies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	民俗宗教の調査、研究のさまざまな事例を通して地域研究の方法や視点を学ぶとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解することを目指す。具体的には、学生が民俗宗教に関する調査方法や基礎知識を修得するとともに、それぞれの地域の人々が伝えてきた精神世界を理解するために民俗宗教研究が提出してきた見方、考え方を理解し、それぞれの事例について民俗宗教研究に基づく見方が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、地域研究を通じて学ぶ民俗宗教の概念について紹介する。次に、地域研究の例として各地で行われた民俗宗教研究を取り上げる。具体的には、本学周辺地区（一日市場地区）で行われている祭礼を紹介し、現状での課題を検討する。次いで、沖縄地方の祭礼と民間宗教者、日本の中国地方や東北地方での祭礼の様相や、地域の人々の要望に応える民間宗教者について紹介し、人間と神霊との関係性、民間宗教者の役割を検討する。さらに、韓国での民間宗教者についても紹介する。 【SDGs：10, 16】 【岐阜学関連の授業回：②, ③】		
授業計画	① 地域研究、民俗宗教について ② 大学周辺（一日市場地区）での祭礼 ③ 大学周辺（一日市場地区）での祭礼の課題 ④ 沖縄伊良部島での祭礼 ⑤ 沖縄伊良部島での民間宗教者 ⑥ 沖縄、南西諸島の民俗宗教 ⑦ 日本の中国地方、東北地方の祭礼 ⑧ 地域社会と精霊憑依 ⑨ 日本東北地方の民間宗教者 ⑩ 日本東北地方での民間宗教者と仏教僧侶との関係 ⑪ 民俗宗教研究から見た宗教者の概念 ⑫ シャーマニズム、シャーマンについて ⑬ 韓国での事例（1）：韓国での民間宗教者 ⑭ 韓国での事例（2）：珍島の民間宗教者 ⑮ 韓国での事例（3）：儒教祭祀 ⑯ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50％、定期試験50％		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。		

科 目 名	比較宗教学 Comparative Religion	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）	科目区分	講義
担 当 者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	世界の人々と生きる私たちは、さまざまな宗教と出会う。宗教は世界を知るための窓の一つとなる。世界各地で営まれているさまざまな宗教について、比較宗教学の観点から学ぶ。具体的には、学生が比較宗教学の観点から、宗教に関する基礎知識を修得するとともに、それぞれの宗教の特徴、各宗教間の同異や関係が説明できるようになることを目標とする。		
授業概要	最初に、宗教学、比較宗教学という学問の特徴や、信仰としての宗教ではなく文化としての宗教の概念について学ぶ。次に宗教の原初形態（宗教の起源）や宗教と呪術との関係、さまざまな宗教をグループ分けする際の考え方について学ぶ。続て、比較宗教学が提出してきた宗教の見方に基づいて、宗教的実在観（各宗教が考える本当のもの、真実の存在）、宗教的人間観（各宗教が人間を如何にとらえているか）、宗教的世界観（各宗教が世界をどのように捉えているか）について学ぶ。さらに宗教儀礼、宗教集団、宗教体験、宗教の役割についても学ぶ。 【SDGs：10, 16, 17】		
授業計画	① なぜ宗教を学ぶか。宗教、宗教学とは。 ② 宗教の原初形態（１） ③ 宗教の原初形態（２） ④ 宗教と呪術 ⑤ 宗教の諸類型（１） ⑥ 宗教の諸類型（２） ⑦ 宗教的実在観（１） ⑧ 宗教的実在観（２） ⑨ 宗教的人間観（１） ⑩ 宗教的人間観（２） ⑪ 宗教的世界観 ⑫ 宗教儀礼 ⑬ 宗教集団と社会 ⑭ 宗教体験 ⑮ 宗教の機能 ⑯ 定期試験		
予復習等	配付されたプリントを整理し、次の授業時間に学ぶ内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート５０％、定期試験５０％		
履修条件	なし。		
教 科 書	なし。プリントを配付する。		
参 考 書	『宗教学入門』／著・脇本平也／出版・講談社（講談社学術文庫）		

科 目 名	ホテル論 Hotel Management	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	宮道 利典	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	都市中心に新規ホテルオープンが続く好調なホテル業界。そのホテル業界の動向や多様なホテル機能、運営と業務内容について学び、観光地・地域におけるホテルの機能と役割について社会生活や産業活動との関係を理解する。またホスピタリティ産業と言われるホテル業界の業務内容を学ぶことを通して、「ホスピタリティとは何か」を創造的に考え、その本質を理解できることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：旅行会社41年間勤務において、海外ホテルの客室を仕入の上、海外旅行の企画・販売業務に18年間担当。その他航空仕入、法務、広報等業務、及び地域観光協会事務局長業務の経験あり】 ホテルの歴史、ホテル業の定義から経営と組織の特性、ホテル内の業務及びホテル業界の動向等のホテルビジネスの基本的な事柄を学んでいく。同時に、「ホテル業界の観光産業内における役割」、そして今後の動きを見通しながら「ホテル業界の観光地における機能」について理解を深めてもらう。また、岐阜県のホテル業界の動向についても学んでいく。 【SDGs：3, 9, 11】 【岐阜学関連の授業回：④、⑥、⑫、⑬】		
授業計画	① オリエンテーションー宿泊産業の現状 ② ホテルの定義と分類 ③ 欧米におけるホテルの歴史 ④ 日本におけるホテルの歴史 ⑤ ホテル業の経営形態 ⑥ ホテルの組織構造 ⑦ 宿泊部門の基礎知識 ⑧ 料飲部門の基礎知識 ⑨ 宴会部門の基礎知識 ⑩ 営業部門の基礎知識 ⑪ 管理部門の基礎知識 ⑫ ホテルのマーケティング ⑬ ホテル産業の課題と戦略 ⑭ ホテルのホスピタリティとホテルスタッフに求められる能力 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】宿泊産業や観光産業のニュースを読み、業界の動向を把握すること。 【復習】配布資料を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	【自学科学生の場合】 定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。 【他学科学生の場合】 定期試験(70%)、個人ワーク(20%)に出席状況等(10%)を加味して評価する。		
履修条件	なし。		
教 科 書	なし。プリントを配布する。		
参 考 書	なし。		

科 目 名	英語表現Ⅰ English Expression Ⅰ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は、英語コミュニケーション能力の中で特に「聞く」「話す」技能の運用能力向上を目的とする。CNN放送から選ばれたビジネスをテーマとしたニュース映像を視聴し、①ナチュラルスピードで話される内容を理解できること、②ニュース内容を要約して自分の言葉で伝えることができることを到達目標とする。		
授業概要	本授業では、世界最大のニュース専門メディアであるCNN放送 を教材とし、労働、雇用などの社会情勢に関するニュースや最新のビジネストレンド、ライフスタイルに影響のあるハイテクなどのニュース映像を視聴する。 「聞く」技能のトレーニングとしてシャドーイングを行い、ニュースのスピードに慣れる。さらに、各自が興味のある話題をリサーチし、自分の言葉で要約して発表を行い、「話す」技能を身につける。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス Unit 1 ② unit 2, Unit 3 ③ unit 4, Unit 5 ④ Unit 6, Unit 7 ⑤ Review, Research ⑥ Presentation ⑦ unit 8, Unit 9 ⑧ unit 10, Unit 11 ⑨ Review, Research ⑩ Presentation ⑪ unit 12, Unit 13 ⑫ unit 14, Unit 15 ⑬ Review, Research ⑭ Research, Rehearsal ⑮ Presentation ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 テキストの該当範囲の問題を解いておく。 【復習】 音声ストーリーミング配信を使って、復習する。単語リストを作る		
評価方法	出席状況・授業態度２０％、発表２０％、小テスト２０％、定期試験４０％		
履修条件	なし		
教科書	『CNN Short News for Listening Business』／著：JACET関西支部教材開発研究会／出版：朝日出版社		
参考書	なし		

科 目 名	英語表現Ⅱ English Expression Ⅱ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）	科目区分	演習
担 当 者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これまでの短期大学での活動を題材にした英語によるプレゼンテーションを作成し発表することを通じて、自らの考えを英語で効果的に発信できるようになることを目標とします。これを通じて、現代社会において必要な、情報発信力を高め、自らの考えをもとにより良い社会を構築することに、能動的に貢献していこうとする力を身につけます。		
授業概要	上の到達目標を達成すべく、この授業ではプレゼンテーションやその原稿作成のために必要なスキルや考え方（トピック決め、アウトライン、ドラフトの書き方、スライドの作成、原稿の編集、発表練習など）を一つ一つ実践しながら学んでいきます。最終的に、受講者は、岐阜薬科大学と共同で、12月に開催される英語プレゼンテーションコンテストに参加することを目指していきます（予定・変更の可能性あり）。 【SDGs：17】		
授業計画	① ガイダンス ② トピックを決める ③ お互いのトピックについて話し合う ④ アウトラインの作り方 ⑤ アウトラインについて話し合う ⑥ 原稿の書き方（フリーライティング→エディティングのプロセス） ⑦ フリーライティングの実践 ⑧ 原稿途中経過発表① ⑨ 原稿途中経過発表② ⑩ 原稿途中経過発表③ ⑪ 発表スライドの作成 ⑫ 発表演習&ディスカッション① ⑬ 発表演習&ディスカッション② ⑭ 発表演習&ディスカッション③ ⑮ 全体発表会		
予復習等	【予習】 授業で指示された作業を行ってこること 【復習】 授業でのフィードバックを受けて、必要な作業を行うこと		
評価方法	授業姿勢40%、最終プレゼンテーション60%		
履修条件	特になし		
教科書	随時資料を配布する		
参考書	授業で適宜提示する		

科 目 名	検定英語演習Ⅱ Skills for English Proficiency Exams Ⅱ	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	丹羽 卓	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	TOEIC 600点獲得を目指して必要な英語力や攻略法を身につけることを目的とする。リスニングでは、ナチュラルスピードの会話に慣れ、必要な情報を聞き取れるようにする。リーディングでは、テキストから必要な情報をすばやく読み取る力をつけるとともに、出題頻度の高い語句・表現や、基本的な文法もしっかりと学習する。		
授業概要	授業では、TOEICによく取り上げられるテーマを基にリスニング、リーディングの演習を行い、英語力の向上を図るとともに、TOEIC各パートの攻略法を身につける。また、英検の問題、特に面接に慣れるために、2回の授業をあてる。 授業の最初に、語彙の増強に努めるが、発音できない単語は聞き取れないので、発音についてもしっかりと学習する。続いて、各パートの練習問題を解きながら、そのポイントの説明をする。 リスニングについては、問題のスキプトを使って書き取り練習をしそれを提出してもらう。 また復習の確認のために隔週で小テストを行う。 【SDGs：4, 5, 9】		
授業計画	① ガイダンス。TOEICと英検の模擬問題に解答してもらい、解説をする。 ② Unit 1 Studying Abroad ③ Unit 2 International Conference ④ Unit 3 Holidays ⑤ Unit 4 Leisure ⑥ Unit 5 Restaurant ⑦ 英検の筆記試験対策 ⑧ Unit 6 Online Shopping ⑨ Unit 7 Global Warming ⑩ Unit 8 Websites ⑪ 英検の面接対策 ⑫ Unit 9 Workplace ⑬ Unit 10 Nursing Care ⑭ Unit 11 Global Trading ⑮ Unit 12 Eco-Friendly Economy ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各ユニットの問題に解答して授業に出席する。 【復習】隔週で2つのUnitを対象とした小テストを行うので、その準備をする。		
評価方法	授業態度（毎回のリスニングの書き取り提出を含む）20%、隔週の小テスト30%、期末試験50%		
履修条件	なし		
教科書	『Perfect Practice for the TOEIC L&R Test』（成美堂）		
参考書	なし		

科 目 名	A I プログラミング基礎 Basic AI Programming	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	データサイエンス概論や情報・統計処理で学習してきた内容を基に、データサイエンス・機械学習分野で最も人気があると言えるプログラミング言語Pythonを用いて、学習を進めていく。学習を進めることで、社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、機械学習やプログラミングなどを行うための基礎的技能を習得することを目的とする。		
授業概要	この授業では、プログラミング言語Pythonを用いて、プログラミングの基礎から順を追ってプログラミングの学習を進めていく。プログラミングの学習を進めながら、データの可視化や分析、機械学習に係る処理等を実践していく。また、この授業は、岐阜大学から適用された映像や教材などを用いながら、学修を進める。不明な単語や概念については、担当教員等が説明しながら、進めていく。そして、演習を通じて、学んだ知識の定着を行う。これによって、情報分析力と情報処理技術を身に着ける。なお、受講者の興味・関心などを踏まえて、演習内容の一部変更を行う可能性もある。 【SDGs：4, 9】		
授業計画	① ガイダンス、Google Colaboratoryの基本操作 ② Pythonによるプログラミング（繰り返し）（1）学習 ③ Pythonによるプログラミング（繰り返し）（2）演習 ④ Pythonによるプログラミング（条件分岐，データ構造）（1）学習 ⑤ Pythonによるプログラミング（条件分岐，データ構造）（2）演習 ⑥ Pythonによるプログラミング（関数）（1）学習 ⑦ Pythonによるプログラミング（関数）（2）演習 ⑧ Pythonによる数値計算と可視化（numpy, matplotlib）（1）学習 ⑨ Pythonによる数値計算と可視化（numpy, matplotlib）（2）演習 ⑩ Pythonによるデータ処理と回帰分析（pandas, scikit-learn）（1）学習 ⑪ Pythonによるデータ処理と回帰分析（pandas, scikit-learn）（2）演習 ⑫ Pythonによる機械学習（scikit-learn）（1）学習 ⑬ Pythonによる機械学習（scikit-learn）（2）演習 ⑭ Pythonによる画像認識（scikit-image, dlib）（1）学習 ⑮ Pythonによる画像認識（scikit-image, dlib）（2）演習		
予復習等	【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】講義内容を復習しながら、授業中に指示する課題等に取り組むこと。		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	なし。		

科 目 名	国際関係概論 International Relations	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）【他学科専門科目】	科目区分	講義
担 当 者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本講義は、きわめて不安定な現在の国際関係に関する理解を深めることを目的とする。特にウクライナやパレスチナ問題などに焦点を当て、国際関係の重要問題への多面的な理解を深める。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生は、国際関係の歴史を概観することで、現在の諸問題の背景を理解することができる。 2：受講生は、国際関係の重大問題に対して多面的な理解ができる。 3：受講生は、プレゼンテーション等を通じて、理解した内容をわかりやすく発信できる。		
授業概要	2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻、2023年10月に本格化したパレスチナ（ハマス）とイスラエルの武力衝突、そして台湾をめぐる緊張の継続など、いまの世界はきわめて不安定な状態にある。受講生は本講義を通して、世界がなぜそうした状態に陥ったのかを深く理解し、世界がこれからどのような方向に進んでいくかを積極的に考察することを目指す。 本講義は大きく2つのパートに分かれる。前半は国際関係の歴史を概観することで、国際関係を通史的かつ構造的に理解する。後半は、ウクライナ問題やパレスチナ問題など、国際関係の重大問題を取りあげ、関連する文献の講読、プレゼンテーション、ディスカッションを中心に授業を進める。受講生の能動的な授業参加を期待する。（なお、受講生の人数などにより計画が変更になることもありうる。） 【SDGs：1, 4, 5, 10, 16, 17】		
授業計画	① イントロダクション：「国際関係論」とはなにか ② 「ヨーロッパ共和国」の成立と拡大 ③ 帝国主義の時代 ④ 第一次世界大戦 ⑤ 第二次世界大戦 ⑥ 米ソ冷戦の時代 ⑦ 多極化する世界 ⑧ 現代の諸問題：ウクライナ、パレスチナ、米中対立 ⑨ 文献講読・プレゼンテーション① ⑩ 文献講読・プレゼンテーション② ⑪ 文献講読・プレゼンテーション③ ⑫ 文献講読・プレゼンテーション前半のまとめ ⑬ 文献講読・プレゼンテーション⑤ ⑭ 文献講読・プレゼンテーション⑥ ⑮ 文献講読・プレゼンテーション⑦ ⑯ 期末レポート		
予復習等	予習：事前に配布資料がある場合、それを読んでから講義に臨む。プレゼンの準備をする。 復習：講義内容を整理し、わかりにくかったところなどを次回質問する。		
評価方法	【自科学学生の場合】出席状況・授業態度（15%）、プレゼン・ディスカッション（35%）、期末レポート（50%） 【他科学学生の場合】出席状況・授業態度（15%）、プレゼン・ディスカッション（35%）、期末レポート（50%）		
履修条件	特にないが、プレゼンテーションとディスカッションが中心の授業になるので、能動的な姿勢が必要である。		
教科書	なし。資料を配布する。		
参考書	『ロシア・ウクライナ戦争』／著：塩川伸明ほか編著／東京堂出版 『イスラエル——人類史上最もやっかいな問題』／著：ダニエル・ソカッチ／NHK出版		

科 目 名	現代企業事情 Contemporary Business Trend	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は大学生を対象に、就職活動から老後までの長い人生において、どのような働き方があり、またどうやって働くのかを知ってもらい、仕事とうまく付き合いながら自分の人生を設計していく中で、自分にとって大事なことは何なのかを考えてもらうことを目的とする。そのため、基本となる日本社会の仕組みや、企業概念や種類、行動原理を理解し、組織の一員として求められる能力や資質を認識するところまでに到達してもらいたい。卒業後の実社会での自己の将来像を具体化して、その実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を見つける。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外出向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 本授業は岐阜市の中小企業を中心に、様々な企業の経営者や人事担当者、営業担当者などを授業に招き、交流会の形で会社の基本機能（経営管理、経営戦略、製品開発、マーケティング、人材の育成、福利厚生）を説明してもらいながら、働く上での経験談や挫折、人間関係を円滑に行うための秘訣など、企業についてよりリアルに、具体的に認識していく。 【SDGs：5, 8, 9】 【岐阜学関連の授業回：③～⑩】		
授業計画	① 講義の目的・到達目標、進め方、学習方法 ② 企業概念・種類 ③ 企業が求める人材像 ④ お金について（社会保険、年金、ボーナス、投資など） ⑤ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑥ 職場における研修・昇給・昇進について ⑦ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑧ 職場における女性社員の話 ⑨ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑩ 職場における問題解決の考え方 ⑪ 企業での働き方（実務者との交流会） ⑫ グループディスカッション ⑬ グループディスカッション ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表		
予復習等	【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う		
評価方法	授業への参加度60%、グループ発表40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	使わない。パワーポイントを用意する		
参考書	なし		

科 目 名	世界が見る日本 Japan Through the World's Eye	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年前期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本の外側の視点から述べられた日本に関する文献、記事などの資料を講読することを通じて、海外の人々に映る日本の姿がどのようなものであるのか、を知ることが第一の目標です。そして、その知識を踏まえ、海外の人とコミュニケーションをとるときに、それぞれの受講者が考える日本について、説明できるようになることが次の目標です。また、様々な視点から物事を眺めると、見え方が全く異なるということに興味を持ち、異なる視点を肯定的に受け入れる姿勢を身につけることが最終的な目標となります。		
授業概要	日本の外側の視点から述べられた日本に関する文献、記事などの資料を講読します。 英語で 書かれた資料を読むことになります。まず百科事典におけるJapanに関する記事を取り上げて、日本がどのような国として記録されているのかを考察します。次に、過去に書かれた日本を扱った文献（ <i>Guilliver's Travels</i> ）を講読します。授業の後半では、英語圏のニュースサイト等に掲載されている日本についての記事をいくつか取り上げ、海外のメディアで報じられる日本の姿を学びます。 【SDGs：17】 【岐阜学関連の授業回：①②】		
授業計画	① ガイダンス／Gifu ② Gifu ③ 百科事典における日本の記述について① ④ 百科事典における日本の記述について① ⑤ 百科事典における日本の記述について① ⑥ 百科事典における日本の記述について① ⑦ 百科事典における日本の記述について① ⑧ 『ガリバー旅行記における日本』について① ⑨ 『ガリバー旅行記における日本』について① ⑩ ニュースメディアで取り上げられる日本① ⑪ ニュースメディアで取り上げられる日本① ⑫ ニュースメディアで取り上げられる日本① ⑬ ニュースメディアで取り上げられる日本① ⑭ ニュースメディアで取り上げられる日本① ⑮ SNS上で取り上げられる日本		
予復習等	【予習】 指定された範囲の英文を読み、内容を把握しておくこと 【復習】 学んだトピックについて、インターネットなどを通して調べ、理解を深めること		
評価方法	授業姿勢40%、期末レポート60%		
履修条件	特になし		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	各回の授業で提示します		

科 目 名	地域振興論 Regional Development	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	講義
担 当 者	孫 ミギヨン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	地域振興は、人間の暮らしをより豊かにするために、地域社会の経済的・文化的・社会的・政治的条件などの改善を通じて地域の魅力を引き出すことである。本授業では、地域振興に関する概念や事例の考察を通じて、岐阜の魅力や振興を主体的に考える能力を育てることを目的とする。		
授業概要	本講義では、地域振興に関わる基本的な概念や実際の国内外の地域振興事例について学ぶ。講義とグループワークを通じて岐阜県・岐阜市の現状や地域が抱える悩み・取り組みなどを調べて、今後の地域振興の在り方や解決策を考える。 【SDGs：9, 11, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑬、⑭、⑮】		
授業計画	① ガイダンス ② 地域と文化、そして空間：地域概念、地域分類、地域文化など ③ 文化地理と環境：文化地理、文化と生態環境 ④ 都市化：都市化の類型、都市景観 ⑤ 都市再生：概念と戦略、ジェントリフィケーションなど ⑥ 地域開発と政策：地域開発の定義、発展戦略など ⑦ 地域文化資源開発の類型 ⑧ 日本の文化資源（世界文化遺産、世界自然遺産、世界記録遺産など） ⑨ 国内・外における地域文化資源の活用事例①：歴史文化資源、都市再生など ⑩ 国内・外における地域文化資源の活用事例②：ロード、祭り、移住コミュニティなど ⑪ 国内・外における地域文化資源の活用事例③：エコミュージアム、作家の故郷など ⑫ 国内・外における地域文化資源の活用事例④：公演、芸術産業など ⑬ グループ発表：岐阜の文化資源と地域振興① ⑭ グループ発表：岐阜の文化資源と地域振興② ⑮ グループ発表：岐阜の文化資源と地域振興③ ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 新聞、雑誌、インターネットなどで、地域振興、地域文化などに関するテーマに関心向けること。 【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	出席状況・授業態度３０％、グループ発表２０％、定期試験（レポート）５０％（授業回数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象にならない）		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし		

科 目 名	国際協力論 International Cooperation	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	荒木 隆人	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	最近、「SDGs」や「持続可能」という言葉をよく聞くようになっている。「SDGs」や「持続可能」といったことをキーワードに、本講義では、開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの課題をもとに国際協力のあり方を学ぶ。到達目標としては、途上国の貧困問題、基本的人権の問題、地球温暖化、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援といった課題について十分に理解し、説明できることである。		
授業概要	2015年、国連総会において持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)が採択され、日本も積極的にその推進に取り組んでいる。SDGsの具体的目標の中でも、途上国の貧困・飢餓に関わる問題（南北問題と政府開発援助の可能性）、基本的人権の問題（第二次大戦後の国際人権レジームの形成）、地球温暖化に代表される地球環境問題（二酸化炭素排出削減への取り組み等）、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援（国連平和維持活動等）への取り組みは中心的なものである。それゆえ、本講義では開発援助、人権問題、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。それらを考えることは、以下のようにSDGsのすべての項目を考えることにつながる。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス：持続可能な開発目標(SDGs)とは ② 貧困問題と開発援助（南北問題と持続可能な開発） ③ 貧困問題と開発援助（政府開発援助） ④ 貧困問題と開発援助（日本のODA） ⑤ 貧困問題と開発援助（ODAの展望） ⑥ 人権問題と国際協力（戦後の人権保護） ⑦ 人権問題と国際協力（冷戦期における人権保護） ⑧ 人権問題と国際協力（冷戦後における人権保護） ⑨ 地球環境問題と国際協力（地球環境問題とは） ⑩ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム1） ⑪ 地球環境問題と国際協力（地球環境レジーム2） ⑫ 平和構築の国際協力（平和維持） ⑬ 平和構築の国際協力（平和構築） ⑭ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力1） ⑮ 平和構築の国際協力（平和構築と日本の協力2） ⑯ まとめ		
予復習等	【予習】講義内で紹介する教科書等で各回の講義で扱う内容について予習をすること 【復習】講義で配布された資料を理解した上で、一層理解を深めるために参考書等で調べる		
評価方法	小課題20%、期末レポート80%		
履修条件	なし		
教科書	『国際政治学をつかむ』／著・村田晃嗣ほか／出版：有斐閣、ISBN 978-4641177222		
参考書	『国際協力ーその新しい潮流』／著：下村恭民／出版：有斐閣、その他の参考書は講義内で指示する。		

科 目 名	ヨーロッパ文化論 European Cultural Studies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ヨーロッパの文化を研究する上で基礎となる知識の習得を目標とします。授業の前半では、ヨーロッパの概要、ヨーロッパに存在する国々に関する知識の習得を目指します。後半では、ヨーロッパの文化的基盤を構成する古典文献の講読を通じて、ヨーロッパの人々と共通の文化的な知識を身につけます。これらを通して、世界の人々とコミュニケーションをとる際に間接的に役立てることのできる知識の習得を目指します。		
授業概要	この授業ではまず、ヨーロッパ全体像とそれを構成する国々について学ぶ際に必要な基本事項を概観します。その際、グループでヨーロッパの国々のことを調べ、発表していただく機会を設けます。次に、ヨーロッパの文化的基盤となっている古典テキストを講読します。ギリシア・ローマ神話と聖書に出てくるよく知られたエピソードを、英語で書かれた文献を用いて講読します。 【SDGs：17】		
授業計画	① ガイダンス ② ヨーロッパの歴史 ③ ヨーロッパの芸術 ④ ヨーロッパの国々① ⑤ ヨーロッパの国々② ⑥ ギリシア・ローマ神話について／ギリシア・ローマ神話テキスト講読① ⑦ ギリシア・ローマ神話テキスト講読② ⑧ ギリシア・ローマ神話テキスト講読③ ⑨ ギリシア・ローマ神話テキスト講読④ ⑩ ギリシア・ローマ神話テキスト講読⑤ ⑪ 聖書講読① ⑫ 聖書講読② ⑬ 聖書講読③ ⑭ 聖書講読④ ⑮ 聖書講読⑤ ⑯		
予復習等	【予習】指定された資料を熟読すること 【復習】学んだトピックについて、資料を調べ、理解を深めること		
評価方法	授業姿勢30%、期末レポート60%		
履修条件	特になし		
教科書	初回の授業で提示します		
参考書	各回の授業で提示します		

科 目 名	中国文化受容論 Acceptance of Chinese Culture	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化を受容する際、どのような視点でそれが行われるのかを、日中の古典文学の比較から考える。唐の玄宗と楊貴妃の物語を扱った『唐物語』の内容を、原典となった中国の古典文学作品の内容と比較することで、何が書かれているか、どのような情報が取り入れられているか、逆にどのような情報が取り入れられていないか、またその理由などを理解し、論理的な思考が組み立てられるようになることを目的とする。そこから実生活において、身近にあふれる情報を分析的に見つめ冷静に判断する力を養うことを到達目標とする。		
授業概要	日中の古典文学作品を読み比べる作業から、文化の受容について、作品成立の背景や特徴、作品の狙いや作者の意図などから分析し、ものごとの本質を見出す。具体的には中国の故事（お話）を日本語に翻訳した物語集『唐物語』（12世紀後半成立）に収められた「玄宗皇帝と楊貴妃の語（こと）」をゆっくり味わって購読し、そのもととなった中国古典文学作品『長恨歌』・『長恨歌伝』、『楊太真外伝』に表現された楊貴妃像を比較・分析する。そして「なぜそのように表現されているのか」を作者の意図や時代背景などから考える。そのことによって、それぞれの視点から楊貴妃という人物の本質に迫ろうとするものである。 【SDGs：4、10】		
授業計画	① ガイダンス、『唐物語』の概要 ② 『唐物語』購読【1】 ③ 楊貴妃の魅力についての比較（1） ④ 楊貴妃の魅力についての比較（2） ⑤ 『唐物語』購読【2】 ⑥ 楊貴妃の政治性についての比較（1） ⑦ 楊貴妃の政治性についての比較（2） ⑧ 楊貴妃の政治性についての比較（3） ⑨ 『唐物語』購読【3】 ⑩ 楊貴妃の奔放さについての比較（1） ⑪ 楊貴妃の奔放さについての比較（2） ⑫ 『唐物語』購読【4】 ⑬ 『唐物語』購読【5】 ⑭ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（1） ⑮ 『長恨歌』鑑賞―比較文学的視点から―（2） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40％、授業時に書いてもらうメモ20％、定期試験40％		
履修条件	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科 目 名	異文化コミュニケーション Cross-Cultural Communication	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	講義
担 当 者	小田 麻里名	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本講義の目的は、英語、フランス語、ドイツ語といった今まで見聞きしてきた外国語を紹介したり、様々な出来事や意見を通して感じたり見えてきたことが、さらに深く理解することで、伝える伝わるハートフルなコミュニケーション力を身につけることです。		
授業概要	それぞれの考え方を理解し、相手を尊重することと同時に日本人の一人としての文化や自分自身を表現していく大切さも実感してもらいながら、日常生活を通して普段意識されていない部分に、諸問題の解決方法があることに気づいてもらい、生きた、もっともっとゆたかなコミュニケーション力を身につけていただきたいので様々な例を紹介しつつ学んでいきます。 【SDGs：4】		
授業計画	① はじめに ② 異文化コミュニケーションを学ぶことの大切さ ③ 新しい発見と気づき ④ 文化とは何か ⑤ 自己開示の大切さ ⑥ 言語コミュニケーションスタイル ⑦ ほめるコミュニケーション ⑧ 形容詞の重要性 ⑨ 自己表現のゆたかさのスタート ⑩ しぐさと対人距離 ⑪ 時間の間と感覚 ⑫ ことわざから見えてくる相違点 ⑬ 共感としてのコミュニケーション ⑭ ジェスチャーと会話 ⑮ 意見を言って理解することへの道、言葉の力とゆたかさ ⑯ 定期試験		
予復習等	〔予習〕教科書（指定部分）をよく読み自らの主張を言葉にしておく準備 〔復習〕講義内容をノートにまとめ自分の意見を論ずる		
評価方法	小課題20％ 期末試験80％		
履修条件	ないです		
教科書	異文化コミュニケーションワークブック 矢代京子他著 三修社 978-4-384-01851-6		
参考書	参考書はその都度講義内で指示します		

科 目 名	英語表象文化 Culture of English Representation	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	ウィリアム・シェイクスピアによる劇作品を様々な観点から考察することを通じて、様々な文化事象を解釈することを経験し、解釈という行為を意識しながら行えることを目指します。受講者同士、解釈についての議論を通じて、多様な視点から物事を解釈する姿勢、自らとは異なる視点や解釈を肯定的に受け入れる姿勢を身につけることを目標とします。		
授業概要	この授業では16世紀末～17世紀初頭にかけてイングランドで活躍した劇作家ウィリアム・シェイクスピアの『夏の夜の夢』、『ロミオとジュリエット』を取り上げます。原作や翻案（原作をもとに新たに作られたもの）の講読を通して、様々な視点から戯曲を眺め、多様な視点からの解釈を試みます。また、実際に『ロミオとジュリエット』の朗読活動を行い、有名な場面を皆で演じて披露する場を設けます。劇の登場人物（他者）を演じることを通じて、他者の立場に立って物事を眺め、それを表現することを実践します。 【SDGs：17】		
授業計画	① ガイダンス／シェイクスピア、表象文化について ② 『夏の夜の夢』① ③ 『夏の夜の夢』② ④ 『夏の夜の夢』③ ⑤ 『夏の夜の夢』④ ⑥ 『ロミオとジュリエット』概要 ⑦ 『ロミオとジュリエット』解釈 ⑧ 『ロミオとジュリエット』台詞解説、朗読① ⑨ 『ロミオとジュリエット』台詞解説、朗読② ⑩ 『ロミオとジュリエット』台詞解説、朗読③ ⑪ 『ロミオとジュリエット』台詞解説、朗読④ ⑫ 『ロミオとジュリエット』台詞解説、朗読⑤ ⑬ 『ロミオとジュリエット』パート別 朗読練習① ⑭ 『ロミオとジュリエット』パート別 朗読練習② ⑮ 『ロミオとジュリエット』パート別 朗読発表		
予復習等	【予習】 指定された資料を熟読してくる 【復習】 授業で学んだ内容を振り返り、台詞を声に出して何度も読むこと		
評価方法	授業姿勢30%、朗読発表35%、期末レポート35%		
履修条件	人前で声に出して台詞を読むことに抵抗がないことが望ましい		
教 科 書	初回の授業で提示します		
参 考 書	各回の授業で提示します		

科 目 名	文化交流論 Cultural Interaction	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	文化交流を文化の接触、文化の受け入れととらえ、日本をはじめアジア各地の文化に大きな影響を与えている仏教がインド、中国、日本でどのように展開したかを理解することを目指す。具体的には、学生が仏教の基礎知識を修得し、仏教の内容について説明できるようになることを目標とする。さらには、仏教の基礎知識を修得することによって日本やアジアの文化に対する理解力を深めることが期待される。		
授業概要	はじめに、仏教が生まれる以前からインドで実践されていたバラモン教について学ぶ。次に、釈迦の生涯、釈迦が悟った真理、人間が苦しむ理由、苦しみを除くための修行法、釈迦以後に発生した大乘仏教の思想（仏陀の種類、心の構造、清らかな心、など）について学ぶ。続いて、中国における仏教の展開として、天台教学、華嚴教学、浄土信仰、禅宗についてとりあげ、また、日本仏教の特色についても学ぶ。 【SDGs：16, 17】		
授業計画	① 仏教とは。 ② バラモン教、ウパニシャッド哲学 ③ 釈迦の生涯 ④ 釈迦の悟りの内容 ⑤ 苦しみの由来 ⑥ 修行について。 ⑦ 仏教とバラモン教 ⑧ 原始仏教、部派仏教、大乘仏教 ⑨ 大乘仏教（1）：多くの仏陀（仏陀の種類）、空の思想 ⑩ 大乘仏教（2）：唯識説（心の構造）、如来像（清らかな心）六波羅蜜（修行） ⑪ 中国での仏教（1）：天台教学、華嚴教学 ⑫ 中国での仏教（2）：浄土信仰、禅宗 ⑬ 中国での仏教（3）：禅宗の展開 ⑭ 日本での仏教（1）：奈良仏教、平安仏教 ⑮ 日本での仏教（2）：鎌倉仏教、その他 ⑯ 定期試験		
予復習等	配布されたプリントを整理し、次の授業時間に使用するプリントの内容を確認しておくこと。授業後は学んだ内容のノート整理を怠らないこと。		
評価方法	レポート50%、定期試験50%		
履修条件	なし。		
教 科 書	なし。プリントを配付する。		
参 考 書	『仏教入門』／著・高崎直道／出版・東京大学出版会		

科 目 名	English Discussion	単 位 数	1
	English Discussion	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	The goal of this course is to get students to think critically about a variety of current social issues and become more confident in expressing their opinions in English about those topics. Students will learn and practice skills which will help them successfully participate in group discussions in English with their classmates. Each week, new topics will be introduced and practiced in class so that students will become more comfortable with talking about a wide range of subjects.		
授業概要	Example conversations will be studied to build vocabulary about the topic and introduce expressions needed for having discussions. (The topics listed below may change depending on the interests of the students.) Listening practices will be used to improve students' ability to identify the viewpoints of other people. Speaking exercises will be used to give students focused practice in using discussion strategies to give their opinions. Each unit will end in a group discussion in which students listen to and share their opinions with their classmates. Two speaking tests will be given in order to evaluate students' ability to participate in group discussions. 【SDGs: 3, 5, 8, 13, 16, 17】		
授業計画	① Course introduction ② First impressions ③ Big or small? ④ The good language learner ⑤ Forever single ⑥ What are friends for? ⑦ Speaking test 1 ⑧ What's for lunch? ⑨ International relationships ⑩ Environmental issues ⑪ Rumors and relationships ⑫ Happiness and lifestyles ⑬ Immigration issues ⑭ Finding the right one ⑮ A mother's story ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	参加態度 30%、課題 30%、スピーキングテスト 40%		
履修条件			
教科書	Impact Issues 2 (3rd ed). Richard Day, Joseph Shaules & Junko Yamada. Pearson. 2019.		
参考書			

科 目 名	English Presentation	単 位 数	1
	English Presentation	必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担 当 者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course will teach students basic skills for giving presentations in English. Students will learn how to develop a spoken presentation, from brainstorming ideas and writing outlines, to using expressions which help to emphasize important points so that an audience can easily understand their message. Practice will also be done in how to effectively deliver a speech using appropriate gestures, posture, and voice inflection. Emphasis will be placed on developing creative presentations with interesting content delivered in effective ways.		
授業概要	Students will become familiar with a variety of topics and presentation performance skills through example dialogues, listening practice, videos, and group discussion. Language activities will be used to increase students ability to talk effectively about the main topics. Presentation skills will begin with the basics then progress to more advanced techniques. After each topic has been practiced and new techniques learned, students will exhibit the skills they have learned by giving presentations in front of the whole class. Presentations will be evaluated both by the teacher and classmates, and feedback given to help students progress and gain confidence quickly. 【SDGs : 4, 17】		
授業計画	① Course introduction ② Topic 1: An admirable person ③ Presentation techniques ④ Presentation 1 ⑤ Topic 2: Vacation preferences ⑥ Presentation techniques ⑦ Presentation 2 ⑧ Topic 3: Using surveys ⑨ Presentation techniques ⑩ Presentation 3 ⑪ Topic 4: Explaining a process ⑫ Presentation techniques ⑬ Presentation 4 ⑭ Topic 5: Supporting opinions ⑮ Presentation techniques ⑯ 定期試験 (Final presentation)		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	In-class participation 30%, Homework assignments 20%, Presentations 50%		
履修条件			
教科書	Present Yourself 2: Viewpoints (2nd ed). Steven Gershon. Cambridge Univ. Press. 2022.		
参考書			

科 目 名	メディアイングリッシュⅡ Media English Ⅱ	単 位 数	1
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	必選区分	選択
担当 者	藤田 怜史	科目区分	演習
担 当 者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業は世界のニュース映像をとおして、総合的な英語能力に加えて国際ニュースへの関心と理解をふかめることを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおり。 1：受講生はリスニングやスピーキングを含めた総合的な英語能力を向上させることができる。 2：受講生は世界のニュースに触れることで、国際的な視野を持ち、異文化に対する関心と理解を深めることができる。		
授業概要	本授業では、アメリカの報道局のニュース映像を利用し、ネイティブの生きた英語に触れることで、リスニングやスピーキング能力を含めた総合的な英語能力の向上を目的とする。また副教材を用いてTOEICなどのポイントについても触れる予定である。関心の持ったニュース（授業で扱ったものに限らない）の内容や感想についてまとめたエッセイを書き、読み合わせやプレゼンテーションを行うなど、英語表現や内容について論評する機会も設けたい。 【SDGs：4. 10. 16. 17】		
授業計画	① Guidance (self-introduction, etc) ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ mid-term report, presentation 1 ⑦ unit 5 ⑧ unit 6 ⑨ unit 7 ⑩ unit 8 ⑪ mid-term report, presentation 2 ⑫ unit 9 ⑬ unit 10 ⑭ unit 11 ⑮ unit 12 ⑯ 定期試験（ないしレポート）		
予復習等	予習：指定されたユニットのテキストを読み、単語を辞書で調べておく 復習：聞き取りなどで聞き取れなかったフレーズを中心に繰り返し聞き、シャドーイングを行う		
評価方法	出席状況・授業態度（30％）、課題（20％）、定期試験（50％）		
履修条件	なし		
教 科 書	『CNN:ビデオで見る世界のニュース（25）』／著：関西大学CNN英語研究会／朝日出版社		
参 考 書	なし。適宜紹介する。		

科 目 名	メディアイングリッシュⅢ Media English Ⅲ	単 位 数	1
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	必選区分	選択
担当 者	澤田 真須美	科目区分	演習
担 当 者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	インターネットの利用を通して、メディア・リテラシーの基礎力を養成することを目的とする。到達目標は、以下である。1) インターネットを通じた生のテキストで生きた英語に触れ、聴解や読解できる力を身に付ける、2) 現代的な社会問題について必要な情報を収集し、得られた情報を適切に整理・分析できる、3) 2で整理・分析した情報をもとに、考察したことを英語で効果的に発表することができる。		
授業概要	実用的な英語表現を映像とスクリプトを用いた活動を通じて学習し総合的な英語力を培う。視聴覚教材に関連する文法事項と語彙を丁寧に確認することで英語力の充実を図る。また、内容理解だけでなく、定型表現の使い方を確認し、スクリプトで確認した内容の要約も行う。インターネット上のテキストや動画等を英語で理解する。与えられたテーマ（料理、音楽、映画など）に沿って必要な情報をインターネット上で収集し、まとめたことや考えたことに基づき、ペアや小グループ内でディスカッションやプレゼンテーションを行う。受講者には、能動的な参加が求められる。 【1, 3, 4, 5, 7, 9, 10, 12, 13, 16】		
授業計画	① Introduction ② Unit 1 Kimuchi in Space ③ Unit 2 Is Ginkgyo Biloba Effective? ④ Unit 3 Our Best Friends Understand Us! ⑤ Unit 4 Gaming Online ⑥ Unit 5 Overtaken by China ⑦ Unit 6 More Salt with Your Vegetables? ⑧ Unit 7 Homes for the Homeless ⑨ Unit 8 Care for an Exoskeleton? ⑩ Unit 9 Health on the Go ⑪ Unit 10 E-Books Rising ⑫ Unit 11 Health in the Forest ⑬ Unit 12 Gravity- defying Skateboards ⑭ Unit 13 Living Your High-tech Dreams ⑮ Unit 14 Onward to Jupiter ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】プレゼンテーション課題（Cooking, Music, Movieなど）の準備 【復習】授業で扱った教材の復習		
評価方法	授業内課題30％、小テスト20％、定期試験50％として総合的に判断する。		
履修条件	このテキストには購入者への特典がありこれを利用して授業を進めます。よって中古品ではなく新しい本を購入してください。		
教 科 書	VOA News Plus ISBN9784791947942		
参 考 書	なし		

科 目 名	エッセイライティング Essay Writing	単 位 数	1
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	必選区分	必修
担当 者	コットン ランダル	科目区分	演習
担 当 者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course aims to help students learn to write well in English and, at the same time, improve their overall English ability through writing. Students will review basic paragraph writing skills and practice various ways to organize ideas in writing. Students will also learn and practice skills for writing longer essays and reports. For the final writing assignment, students will make use of the composition skills they have learned in order to write a three page report in English.		
授業概要	The course will begin with a review of basic paragraph writing skills in English: writing topic sentences, giving support, and writing a conclusion. Students will also learn what to look for when revising their paragraphs. As needed, appropriate grammar practices will be used to help student improve their sentence-level accuracy. Later, students will learn how to write longer essays and practice different ways to organization information in process essays, cause and effect essays, comparison and contrast essays, and problem-solution essays. 【SDGs : 4, 17】		
授業計画	① Course introduction, writing assessment ② Paragraph organization, topic sentences ③ Paragraph unity and irrelevant sentences ④ Supporting sentences: facts, reasons, and examples ⑤ Writing concluding sentences and titles ⑥ Revising and editing ⑦ Introduction to essays ⑧ Process essays (1) ⑨ Process essays (2) ⑩ Cause and effect essays (1) ⑪ Cause and effect essays (2) ⑫ Comparison and contrast essays (1) ⑬ Comparison and contrast essays (2) ⑭ Problem-solution essays (1) ⑮ Problem-solution essays (2) ⑯ 定期試験（レポート）		
予復習等	【予習】 Study the textbook before coming to class each week. 【復習】 Review the lessons to better remember the material covered in class.		
評価方法	出席状況 10%、 少テスト 20%、宿題 30%、定期試験（レポート）40%		
履修条件			
教科書	Ready to Write 3 (4th ed). Karen Blanchard & Christine Root. Pearson. 2017.		
参考書			

科 目 名	アカデミックライティング Academic Writing	単 位 数	1
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	必選区分	選択
担当 者	大澤 聡子	科目区分	演習
担 当 者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	アカデミック・イングリッシュとしての論文の書き方を学修する。学術論文には書き方に一定の形式があり、その形式についての知識は論文を読む場合にも書く場合にも必要不可欠である。本授業は、英語論文を作成するにあたり、最低限必要な基本知識を学ぶ。書式、論文の構成、文献資料の扱い方、引用の仕方、出典の示し方に加え、論文にふさわしい英語表現を理解し、基本事項を満たしたエッセイを書けるようになることを目標とする。		
授業概要	論文とは、ある問題について調査し、検討を重ね、導き出した結論について文章化し、自分の主張を論理的かつ客観的に伝えるものであるが、その書き方には一定の決まりがある。英語論文の決まり事は「書く」場合のみならず、「読む」場合にも役立つ知識である。本授業では論文の書式、構成、文献資料の扱い方、引用の仕方、出典の示し方などの基本事項を多くの例題をとおして学修する。また、論文としてふさわしい英語表現についても学修し、最後に基本事項を満たした短いエッセイを書く。 【SDGs : 3, 4, 7】		
授業計画	① ガイダンス ② アカデミック・ライティングの文化 ③ リサーチを始めるにあたって ④ リサーチ・ペーパーの構成 ⑤ 英語で書くために（1） ⑥ 英語で書くために（2） ⑦ 原稿を書く（パラグラフ・ライティングとは） ⑧ 原稿を書く（文章サンプル） ⑨ 論文の体裁（タイトル、書式） ⑩ 引用方法 ⑪ バラフレーズとサマリー ⑫ 引用文献の示し方 ⑬ リサーチ・ペーパーの作成（1） ⑭ リサーチ・ペーパーの作成（2） ⑮ 完成に向けて ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定されたテキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】 重要事項をまとめる。リサーチ・ペーパーのための情報を検索、収集する		
評価方法	出席状況・授業態度20％、課題：30％、定期試験50％		
履修条件	なし		
教科書	『英語アカデミック・ライティングの基礎』／編著：一橋大学英語科／出版：研究社		
参考書	『英語論文の書き方 入門』／著：迫桂、徳永聡子／出版：慶応義塾大学出版会		

科 目 名	アドバンストリーディング Advanced Reading	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	中・上級レベルの英文読解能力の養成を目指します。少し難易度の高い文章を読むことを通じて、複雑な文の構造を把握し、意味を正確に読み取れるようになることを目的とします。また、レベルの高い英文読解力の養成に必要な語彙の習得を通じて、総合的な英語力の向上も目指していきます。		
授業概要	中・上級レベルの英文読解能力の習得を目的とする授業です。政治や歴史など大きなテーマから、ごく日常的な話題に至るまで、様々な話題を扱った少し難易度の高い文章を読み進めていきます。また、様々な文章を読むことを通じて、これからの時代を生きていくために必要な幅広い視点を養うことも目指していきます。授業では2回につき1つずつLessonを丁寧に読み進めていきます。読む英文の難易度がかなり高いので、解説に時間をかけながら進めていきます。 【SDGs：1 2 3 4 5 8 10 13 16 17 】※リーディング教材で扱うテキストに関連するものになります		
授業計画	① ガイダンス ② 1つ目のLesson ① ③ 1つ目のLesson ② ④ 2つ目のLesson ① ⑤ 2つ目のLesson ② ⑥ 3つ目のLesson ① ⑦ 3つ目のLesson ② ⑧ 4つ目のLesson ① ⑨ 4つ目のLesson ② ⑩ 5つ目のLesson ① ⑪ 5つ目のLesson ② ⑫ 6つ目のLesson ① ⑬ 6つ目のLesson ② ⑭ 7つ目のLesson ① ⑮ 7つ目のLesson ② ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】 指定された箇所の英文を読み、演習問題を解いてくること 【復習】 授業で学んだ語彙を覚える努力をすること、英文を声に出して読むこと		
評価方法	授業姿勢30%、期末試験70%		
履修条件	特になし		
教科書	『A World of Ideas: Active Reading for Global Awareness』／著：Jim Knudsen他／出版：南雲堂		
参考書	特になし		

科 目 名	観光英語 Tourism English	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	コットン ランダル	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	This course will explore different ways to introduce Gifu culture in English to people living outside of Japan. Students will practice creating English content which can be posted on social media platforms such as Facebook. In order to create interesting and effective content, students will do research and fieldwork, then practice writing about what they have learned about traditional and modern culture in Gifu.		
授業概要	A variety of print and online media will be used to help students learn how to introduce Gifu in an interesting and effective way. A wide range of themes such as festivals, customs, sightseeing spots, events, and local crafts and foods will be explored in order to help students expose potential visitors to a wide range of things to see and do in the Gifu area. 【SDGs: 4, 9, 17】 【岐阜学関連の授業回： ②～⑮】		
授業計画	① Course introduction ② Gifu City tourist attractions ③ Groupwork and individual preparation ④ Gifu Handicrafts ⑤ Groupwork and individual preparation ⑥ Nature spots in Gifu ⑦ Groupwork and individual preparation ⑧ Gifu Festivals ⑨ Groupwork and individual preparation ⑩ Food & Drink specialties ⑪ Groupwork and individual preparation ⑫ Gifu hot springs ⑬ Groupwork and individual preparation ⑭ Travel in Gifu ⑮ Groupwork and individual preparation ⑯ 定期試験		
予復習等	Students will need to spend a lot of time outside of class doing collecting information to use for in-class assignments.		
評価方法	Participation 20%; Homework 40%; Writing assignments 40%		
履修条件			
教科書	Materials will be distributed in class and online.		
参考書			

科 目 名	英語コミュニケーション論 English Communication Studies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年前期）	科目区分	講義
担 当 者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	コミュニケーションの多くは「ことば」を媒介として行われる。したがって「ことば」を深く理解することがコミュニケーションの理解につながる。本授業では英文法の理解を通して英語コミュニケーション能力の向上につなげることを目的とする。特に、これまでに学修した英文法を単なる知識としてではなく、①コミュニケーションに使える文法として理解し、②英語の感覚を身につけることを目標とする。		
授業概要	本授業では、英語学修者からコミュニケーションに「使える」実用的な文法書として定評のある <i>Grammar in Use</i> を使用し、高校までの英文法を復習すると同時に、多くの実用的な用例を見ながら、自然な文脈や会話の中での使用法を理解する。テキストは平易な英語で解説され、練習問題も全て英語で書かれているものを使用するため、毎回の予習が求められる。授業ではテキストの文法解説に加え、英語という言語の「本質的なしくみ」について、さらに掘り下げた解説を行う。 【SDGs：4】		
授業計画	① ガイダンス ② Present and Past (1) 現在形と過去形 ③ Present and Past (2) 現在形と過去形 ④ Present Perfect (1) 現在完了形 ⑤ Present Perfect (2) 現在完了形 ⑥ Present Perfect and Past 現在完了形と過去形 ⑦ Future (1) 未来表現 ⑧ Future (2) 未来表現 ⑨ Modal Auxiliary (1) 法助動詞 ⑩ Modal Auxiliary (2) 法助動詞 ⑪ Subjunctive (1) 仮定法 ⑫ Subjunctive (2) 仮定法 ⑬ Passive (1) 受動態 ⑭ Passive (2) 受動態 ⑮ Review ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】テキストの授業範囲を読み、疑問点をまとめておく。 【復習】重要事項をまとめる。		
評価方法	出席状況・授業態度３０％、定期試験７０％		
履修条件	なし		
教科書	Grammar in Use Intermediate / Raymond Murphy / Cambridge University Press		
参考書	授業で指示する。		

科 目 名	英米文学 British and American Literature	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）	科目区分	講義
担 当 者	鈴木 辰一	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	古英語時代～現代にいたるイギリス文学、アメリカ文学の歴史を概観することによって、英米文学を研究する上で最低限知っておくべき知識を得ることを目的とします。現代も広く読まれている作家とその作品についての知識を得ることにより、英語圏（特に英米）の人々と共通の文化的な知識を身につけ、コミュニケーションを取る際に間接的に役立てられるようにします。		
授業概要	上の到達目標を達成すべく、この授業では古英語の時代から現代に至るまでの英米文学の歴史を概観します。授業では、各時代の時代背景や代表的な作家の作品とその特徴などについての講義を行います。時間の許す限り、実際に文学作品の抜粋を読みながら具体的な形で知識を身につけていきます。また、授業外の課題として、３冊以上の文学作品を読み、その概要などをBook Reportとしてまとめて提出することを課します。 【SDGs：17】		
授業計画	① ガイダンス／イギリス文学①ジェフリー・チョーサー他 ② イギリス文学②ウィリアム・シェイクスピア他 ③ イギリス文学③ジョン・ミルトン他 ④ イギリス文学④ダニエル・デフォー他 ⑤ イギリス文学⑤ウィリアム・ワーズワス他 ⑥ イギリス文学⑥チャールズ・ディケンズ他 ⑦ イギリス文学⑦トマス・ハーディー他 ⑧ イギリス文学⑧ヴァージニア・ウルフ他 ⑨ イギリス文学⑨カズオ・イシグロ他 ⑩ アメリカ文学①ナサニエル・ホーソーン他 ⑪ アメリカ文学②マーク・トウェイン他 ⑫ アメリカ文学③アーネスト・ヘミングウェイ他 ⑬ アメリカ文学④J・D・サリンジャー他 ⑭ アメリカ文学⑤アーサー・ミラー他 ⑮ アメリカ文学⑥トマス・ピンチン他		
予復習等	【予習】指定された箇所の資料を読んでくること 【復習】授業で扱った作家やその作品について調べ、作品を読むこと		
評価方法	授業姿勢25%、読書レポート期末試験75%		
履修条件	特になし		
教科書	『An Outline of English Literature』／著：相島倫嘉／出版：南雲堂 『An Outline of American Literature』／著：井上謙治／出版：南雲堂		
参考書	特になし		

科 目 名	中国語（会話） Chinese（Conversation）	単 位 数	1
		必選区分	必修（中国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年前期）	科目区分	演習
担 当 者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	本授業は、旅行やビジネスに必要な基礎会話能力を身につけることを目的とする。中国語の特徴である声調を意識しながら、単語や短文を正しく発音できるよう、または聞き取れるよう、一緒に練習をする。到達目標は基礎的な日常会話を聞き取れること。意欲の高い人には中国語検定3級レベルの指導も行う。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 実務経験に基づいて、受講者が中国語の習得に難しいと感じる点は時間をかけて説明する。観光とビジネスに使う会話を中心に授業を組み立てている。会話に沿って一人ずつ発音をしながら、リアルな会話力を身につけてもらう。毎回、授業の理解とリスニングの練習をするために、最後の15分を使って小テストを行う。授業に合わせて最新の中国情報や音楽なども随時紹介する。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 発音の復習 ② 第2課 中国方言多, 民族也多。 ③ 第2課の文法と練習 ④ 第3課 坐地铁去吧 ⑤ 第3課の文法と練習 ⑥ 第4課 用手机上网查查。 ⑦ 第4課の文法と練習 ⑧ 第5課 我也想去锻炼锻炼。 ⑨ 第5課の文法と練習 ⑩ 第6課 你弹的古筝太好听了！ ⑪ 第6課の文法と練習 ⑫ 第7課 学习中文写作 ⑬ 第7課の文法と練習 ⑭ 第8課 学习中文写作 ⑮ 復習 ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各課の文法を予習して、その説明を理解しておくこと。 【復習】前回習った内容を整理して、毎回のミニ練習に備える。		
評価方法	出席状況30%、小テスト30%、定期試験40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書			
参考書	なし		

科 目 名	観光中国語 Tourism Chinese	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	鄭 躍慶	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	観光と最も関連する内容を題材とした各本文を正しく綺麗に読めることをめざし、その文章に出てくる基本単語、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の理解力を高めていく。また各課の内容によって中国語や中国と日本の社会に関する相互理解をさらに深めて行くことは本講義の目的と到達目標である。更に、学生たちが中国語に対して、興味・関心を持つように促す。		
授業概要	本授業は正しい発音で観光と関連する日常会話ができることを目標とする。授業を中心としながら、個人指導も行う。具体的に文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。一回一課のペースで進めていく予定である。基本表現を繰り返す練習することによって身につけて、コミュニケーション能力を高めていく。そして、問題練習を通じて学習内容を定着させる、しかも視聴覚資料を使って、中国や中国と日本の文化に関する相互理解を深める。 【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：⑮】		
授業計画	① ガイダンス 第1課 自分・家族 ② 第2課 家 ③ 第3課 好きなこと ④ 第4課 SNS ⑤ 第5課 休日 ⑥ 第6課 旅行の思い出 ⑦ 第7課 中国への興味 ⑧ 第8課 東京案内 ⑨ 第9課 交通事情 ⑩ 第10課 買い物事情 ⑪ 第11課 日本の文化 ⑫ 第12課 サブカルチャー ⑬ 第13課 食事 ⑭ 第14課 相互理解 ⑮ 第15課 岐阜の観光について ⑯ 定期試験		
予復習等	（予習）授業前に単語、文法、本文を予習する。（復習）授業後に習った内容を復習することを少なくとも一時間程度に行うこと。		
評価方法	授業への参加状況：授業の参加態度20%、小テスト20%、定期試験60%。（基本的に自学科と他学科の学生に対して同じ基準を評価する）		
履修条件	なし		
教科書	[2年めの伝える中国語] 白水社 著者：及川淳子 （2300円+税）		
参考書	授業中で随時に紹介する。		

科 目 名	現代中国論 Contemporary Chinese Studies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	講義
担 当 者	王 張璋	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	日本と中国は“一衣帯水”という言葉があるように、お互い非常に身近な存在である。また、国は家と違って引越しができない。隣国であるゆえに良好な関係を築かなければならない。しかし、両国の制度や価値観が異なっており、文化も似て非なるものといえるだろう。そのため、中国という存在がどうしても理解しにくいと感じるでしょう。本授業は中国の急速な経済発展において、現代中国人の価値観がどのように形成されたきたかを授業通して解説する。その理解度を到達目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：トヨタ自動車関連の仕事に10年間勤め、海外外向経験あり。その後中国テーマパークの水族館部門にて、副館長として5年間運営に当たった】 現代中国社会の政治、経済、教育が一般国民生活への影響を具体的に“社会主義”、“一党独裁”、“改革開放”、“愛国主義教育”、“一人っ子政策”、“共同富裕”、“共享経済”、などのキーワードを通して解説しながら、日本と比較することで両者の同異を理解してもらう。 【SDGs：10, 16】		
授業計画	① 講義の目的・到達目標、進め方、学習方法 ② 現代中国の歴史（“新中国”の成立） ③ 社会主義分配制 ④ 改革開放 ⑤ 男女平等と一人っ子政策 ⑥ 職場における研修・昇給・昇進について ⑦ 格差社会と学歴社会 ⑧ 中国の産業革命1.0、2.0と3.0 ⑨ 共同富裕 ⑩ 中国のSNSについて ⑪ 中国大学生の仕事観 ⑫ 女性の職場事情 ⑬ グループ発表 ⑭ グループ発表 ⑮ グループ発表		
予復習等	【予習】日頃のニュースやトレンドに関心を持つこと。 【復習】疑問に感じたことを調べたり、teamsにて質問や意見交換などを行う		
評価方法	授業への参加度60%、グループ発表40%による総合評価		
履修条件	なし		
教科書	使わない。パワーポイントを用意する		
参考書	なし		

科 目 名	韓国語（会話） Korean（Conversation）	単 位 数	1
		必選区分	必修（韓国語重点の場合）
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	川上 新二	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	初級韓国語（Ⅰ・Ⅱ）、「韓国語（文法・読解）」の学習の上に、韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらに理解できるようになることを目指す。具体的には、学生が韓国語の基本的な表現をさらに覚え、自ら発話することができ、また他者が発話した文章を聞き取り、書き取ることができるようになることを目標とする。自ら韓国語を発話できるかが評価の対象になる。		
授業概要	【担当者の実務経験：在外公館で翻訳、通訳の経験あり】配布するプリントの学習内容にしたがって授業を進める。翻訳、通訳の経験から日本人が習得に困難を感じると思われる点については時間をとって説明する。受講者には韓国語で発話してもらったり、質問に答えてもらったりするので、積極的に授業に参加してほしい。これまで学んだ文法事項をできるだけ使って発話に挑戦することを期待する。 【SDGs：4】		
授業計画	① -(으)로, -까지, -(으)니까 ② -아/어/여서, -에서-까지 ③ -부터-까지, 르不規則変化 ④ -에게, -한테, -께, -군요, -는군요 ⑤ -아요/-어요/-여요, -는/(으)ㄴ/(으)ㄹ名詞 ⑥ ㄹ不規則変化, ㅂ不規則変化, ㄷ不規則変化 ⑦ -기 때문에, -때문에, -(으)ㄹ 것이다 ⑧ 動詞는데, 形容詞ㄴ/은데, 名詞인데 ⑨ -을 것 같다, -는 것 같다, -ㄴ 것 같다, ⑩ ㅎ不規則変化, -지 못하다, -(으)면, -(으)ㄹ 수 있다/없다 ⑪ -(으)러 가다/오다, -전에, -마다 ⑫ -아/어/여 보다, -았/었/였으면 하다 ⑬ -아/어/여 자다, -(이)나, -기로 하다 ⑭ -는 동안, -고요 ⑮ -(으)려고, -고요 ⑯ 定期試験		
予復習等	プリントの中から次の授業で学ぶ範囲の単語の意味を調べ、例文を読んでおくこと。毎回授業内容の復習に努めること。		
評価方法	定期試験50%、出席状況及び授業態度50%		
履修条件	「初級韓国語Ⅰ・Ⅱ」「韓国語（文法・読解）」の単位を修得していること。		
教科書	なし。プリントを配付する。		
参考書	「初級韓国語Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書		

科 目 名	観光韓国語 Tourism Korean	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担 当 者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	韓国旅行に必要な多様な表現を学び、観光関係の韓国語が自由に話せて、韓国旅行に支障がないことを目指す。 さらに、この講義で学んだ表現を応用して岐阜の観光地情報と魅力を韓国語で提示・説明・対話できるようになることを目標とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関等での通訳、翻訳の経験あり】 海外旅行に必要な韓国語表現を学び、コミュニケーション活動を定着させることで、韓国語表現を聞き取ったり話したりすることができる。授業では会話を伸ばしていくために、クラス内でペアで会話練習などを行う。 【SDGs：4, 9, 17】 【岐阜学関連の授業回：⑭、⑮】		
授業計画	① ガイダンス ② 第1課 こちらへどうぞ ③ 第2課 ウォンに換えてください ④ 第3課 まっすぐ行くと4番出口に出ます ⑤ 第4課 いま部屋に入れますか ⑥ 第5課 自分で買わなきゃいけないんですか ⑦ 第6課 どこで何時に会いましょうか ⑧ 第7課 二人ともかわいいでしょ？ ⑨ 第8課 辛いものも食べられる？ ⑩ 第9課 辛さ控えめにしてもらえますか。 ⑪ 第10課 一度も聞いたことないじゃないですか ⑫ 第11課 3万5千ウォンにしてもらっちゃだめですか ⑬ 第12課 どうしても遅くなりそうです ⑭ 岐阜の観光地の紹介① ⑮ 岐阜の観光地の紹介② ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 次回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。 【復習】 毎回授業の復習に努めること。		
評価方法	発表及び提出物２０％、授業態度１０％、小テスト３０％、定期試験４０％(授業回数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	「初級韓国語（Ⅰ・Ⅱ）」、「韓国語会話Ⅰ」の単位を履修していること		
教科書	『コミュニケーション韓国語 聞いて話そうⅡ』／著：長谷川由起子、張コンヒャン／出版社：白帝社		
参考書	なし		

科 目 名	現代韓国論 Contemporary Korean Studies	単 位 数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（２年後期）	科目区分	講義
担 当 者	孫 ミギョン	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	この授業では「韓流」やK-popにとどまらず、韓国の社会や文化についての入門的な内容を学び、韓国における多様な分野の文化に関する知識を習得することを目指す。		
授業概要	本講義では日本と最も近い韓国の文化や社会について学習する。現代韓国の時間的範囲を1948年8月15日の大韓民国樹立からとして授業をすすめていく。韓国の政治的変化、経済政策や文化政策について学び、韓国に関連する知識を身に付ける。さらに、ケーススタディを通じてより理解を深めていく。授業内容は受講生の韓国語の習熟度に応じて変更する場合がある。 【SDGs：4, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② 韓国学の領域と範囲 ③ 現代韓国の政治的変化と経済の発展段階 ④ 韓国における文化政策の歴史①：韓国政府樹立から文民政権の発足まで ⑤ 韓国における文化政策の歴史②：国民の政府から現在まで ⑥ 韓国文化コンテンツ産業と韓流 ⑦ 日本における韓流現象 ⑧ K-POP史：ソテジからTREASUREまで ⑨ BTOBの「It's Okay」から見る韓国社会における【韓国教育制度、大学生の就職状況】 ⑩ 「愛の不時着」から見る韓国社会における【韓国の兵役の義務制度】 ⑪ 「梨泰院クラス」から見る韓国社会における【食文化】 ⑫ 日本における韓国①：在日韓国・朝鮮人、その移住と歴史 ⑬ 日本における韓国②：コリアタウンの形成と機能 ⑭ 学生発表：私が楽しむK-コンテンツ① ⑮ 学生発表：私が楽しむK-コンテンツ② ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 新聞やテレビ・インターネットのニュースなどで、韓国に関するテーマに関心を向けること 【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること		
評価方法	出席状況・授業態度３０％、グループ発表２０％、定期試験(レポート) ５０％(授業回数の３分の１をこえて欠席した場合は評価の対象にならない)		
履修条件	授業は基本的に韓国語で行う。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科 目 名	「やさしい日本語」作文 Plain Japanese (Composition)	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年前期）	科目区分	演習
担 当 者	村中 菜摘	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「やさしい日本語」の意味や社会において果たす役割などを理解した上で、場面や目的に応じた表現を工夫できるようになることを授業目的とする。その上で、場面や相手に応じて、より分かりやすく伝えるために、普段から難解な文章をやさしくかみ砕いて変換しようとする姿勢を身につけられようになること、文章表現を磨くと同時に、話し方や応対の上でも相手の身になった振る舞いの必要性を理解し、実践できるようになることを到達目標とする。		
授業概要	日本語を母語としない相手に分かりやすく伝えるための「やさしい日本語」を実践的に習得する。「やさしい日本語」を用いて、自分の言いたいことを相手に分かりやすく表現するために、語彙の選択や表現方法の工夫なども視野に入れ、グループで各場面に応じた発話を考えて発表する。自分が何を伝えたいか、伝えるべき重要な情報は何かを整理すると同時に、相手が何を知りたいか、何を求めているかを思いやる力を磨く。語彙を増やすことや作文の技術だけでなく、相手に対するやさしくあたたかい姿勢や、他者を配慮する心も磨く。 【SDGs：4, 10】		
授業計画	① ガイダンス、「やさしい日本語」への知識を高める ② 「やさしい日本語」以前に必要な姿勢とは ③ 寄り添う気持ちと求められる態度―話の聞き方演習― ④ 「やさしい日本語」の基本（1）、作文演習（1） ⑤ 「やさしい日本語」の基本（2）、作文演習（2） ⑥ 「やさしい日本語」の基本（3）、作文演習（3） ⑦ 「やさしい日本語」の基本（4）、作文演習（4） ⑧ 「やさしい日本語」の応用（1）、作文演習（5） ⑨ 「やさしい日本語」の応用（2）、作文演習（6） ⑩ 「やさしい日本語」の応用（3）、作文演習（7） ⑪ 「やさしい日本語」のポイント（1）作文演習（8） ⑫ 「やさしい日本語」のポイント（2）作文演習（9） ⑬ 「やさしい日本語」のポイント（3）作文演習（10） ⑭ 「やさしい日本語」作文演習（11） ⑮ 「やさしい日本語」作文演習（12） ⑯ 定期試験		
予復習等	毎回、その日に学んだテキストを見直しておくこと		
評価方法	出席状況・受講態度40％、演習・発表への取り組み30％、定期試験30％		
履修条件	なし		
教科書	『「やさしい日本語」で伝わる！公務員のための外国人対応』／岩田一成他／学陽書房		
参考書	必要に応じて配布プリント、映像教材を用いる		

科 目 名	地域実践演習 〔国際〕 Seminar on Regional Activities (Graduation Thesis/ Works)	単 位 数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年全期）	科目区分	演習
担 当 者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	各担当教員による指導のもと、学生自らが問題意識を持って、各自が関心を持つテーマを研究し、研究成果につなげる。学生自らが調査を行って知識を身につけるとともに、問題を発見し、分析する能力を養う。あわせて、発表の仕方や論文・レポートの書き方も学ぶ。これらを通じて、課題発見能力、問題分析・解決能力、計画遂行能力、成果報告の能力を身につける。		
授業概要	【担当者の実務経験： 】各担当教員によるゼミ（演習）形式で実施する。学生は、1年生後期に行われたゼミ説明会後に配属が決定した各担当教員のゼミで学ぶ。各ゼミの授業概要については、ゼミ説明会で配布された資料に記載された授業内容を確認しておくこと。 【SDGs：10, 16, 17】		
授業計画	各担当教員が示す授業計画による（前期15回、後期15回）。		
予復習等	毎回、各担当教員の指導に従って予習、復習に努めること。		
評価方法			
履修条件	2年生に進級するのに必要な合計単位数が取得できていること。		
教科書	各担当教員が提示する。		
参考書	各担当教員が提示する。		

科 目 名	海外言語・文化演習（英語圏） Overseas Language and Culture Program (English-speaking Countries)	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１・２年全期）	科目区分	演習
担 当 者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これまで学んだ英語の能力を基に、英語圏の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの４技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた英語を使って英語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季もしくは春季休暇中に１０日間程度、英語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による英語および英米文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs：10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度５０％、帰国後の課題５０％		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科 目 名	海外言語・文化演習（中国語圏） Overseas Language and Culture Program (Chinese-speaking Countries)	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１・２年全期）	科目区分	演習
担 当 者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ中国語の能力を基に、中国語圏の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの４技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた中国語を使って中国語圏の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に８～１０日間程度、中国語圏での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による中国語および中国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs：10, 17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度５０％、帰国後の課題５０％		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科 目 名	海外言語・文化演習（韓国） Overseas Language and Culture Program (Korea)	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１・２年全期）	科目区分	演習
担 当 者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	授業で学んだ韓国語の能力を基に、韓国の大学で大学教員による授業を受講しながら、聞く、話す、読む、書くの４技能をさらに伸ばすことを目標とする。あわせて、学生各自が身につけた韓国語を使って韓国の文化、社会を観察、体験し、各自の視野を広め、異なる文化を持つ人々との共存を目指す思考を養うことを目標とする。		
授業概要	夏季休暇中に８～１０日間程度、韓国での研修を予定している。研修先の大学において、ネイティブスピーカーの現地教員による韓国語および韓国文化の授業を受けるとともに、現地学生との交流活動も行う。世界遺産や博物館などの見学、ホームステイも予定している。現地への出発前にオリエンテーションを実施し、帰国後は課題の提出を求める。現地での授業や活動のほかに、出発前のオリエンテーションへの出席、帰国後の課題提出を満たした者に単位取得を認める。 【SDGs：10,17】		
授業計画	① 出発前にオリエンテーションを実施する（数回） ② 現地研修校における語学・文化演習 ③ 帰国後、課題提出		
予復習等	各オリエンテーションの後、その内容を確認し、出発のための準備に怠らないこと。研修先では真面目な態度で臨むこと。		
評価方法	研修での授業や活動への参加態度５０％、帰国後の課題５０％		
履修条件	初回のオリエンテーションで指示する。		
教科書	なし（現地研修先での指定教科書がある場合もある）		
参考書	オリエンテーションで指示する。		

科 目 名	産業・地域振興人材研修 Human Resource Training for Industrial and Regional Development	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（１・２年全期）	科目区分	演習
担 当 者	各担当教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	自治体や企業、観光施設などでの研修を通じて、地域の発展のための課題への取り組みを体験するとともに、職業意識を高める。社会で必要とされている能力について考え、研修後の学習意欲に結びつける。		
授業概要	自治体や企業、観光施設などで研修を受ける。長期休暇を利用した研修が望ましい。単位の認定には４日以上研修期間が必要であり、また、所定の研修期間を完了すること、研修日誌を提出すること、研修後の研修レポートを提出することを単位認定の条件とする。 【SDGs：8】		
授業計画	実施の過程はおおよそ次のように予定している。 ① 事前ガイダンス ② 研修を希望する学生は、希望研修先を進路支援委員の教員又は担当の教員に伝える。 ③ 学生は研修登録を行う。 ④ 研修実施の決定 ⑤ 研修。研修期間中、学生は研修日誌を作成する。 ⑥ 研修終了後、研修日誌と研修レポートを進路支援委員の教員又は担当の教員に提出する。		
予復習等	研修先での研修内容について研究する。研修中は、研修日誌を作成し、翌日の研修に備える。		
評価方法	研修日誌、研修レポートを中心に評価する。		
履修条件	誠実に研修に臨むこと		
教科書	なし		
参考書	なし		

科 目 名	異文化理解と社会の変化 Intercultural Understanding and Social Shift	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担 当 者	松浦 康之・長谷川 旭・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化とは国際だけではなく、文化や言語、地域差といった様々な背景の違いを指している。生成AI（人工知能）など時代の変化が激しい現代において、社会も多様化・複雑化している。そのため、異文化を学んだり、視野を広げたり、他者の視点に立脚して考えることは重要となる。そこで、本講義では、文化や価値観の違いに触れながら、これからの時代に必要とされる人材やグローバリゼーションについて考えていく。これによって、視野を広げることと異文化に対する理解を持つことを目標とする。		
授業概要	現代社会において、全員が同じ発想と内容を持つことは様々な変化に対する脆弱性が高くになると言える。また、これからの時代、従来の延長線や一つの専門領域だけで、社会課題の解決や新しい価値の創造は困難であるとも言える。本講義では、多様な価値を理解し、多様な対応ができることを目指している。そのため、本講義では知識を学ぶだけではなく、共に考えたり、経験をすることによって、様々な背景や価値観を持つ重要性や多面的な視野を養う。また、実例なども取り上げながら、多様性の理解やその必要性について学ぶ。本講義はグローバル人材海外演習の予習の要素も含むが、内容は独立しており、グローバル人材海外演習に参加しない学生も履修可能である。なお、本講義は集中講義（不定期開講・オムニバス）であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs：4, 9, 17】		
授業計画	① ガイダンス・異文化理解とは ② タイの基礎知識 ③ 日本との違いや難しさ ④ 時代や社会の変化を改めて知る ⑤ 異文化理解を考える（1）事例紹介 ⑥ 異文化理解を考える（2）プレゼン ⑦ 異文化理解を考える（3）まとめ ⑧ これからの人材に求められるものとは		
予復習等	【予習】 ニュースに関心を持ち、未知のキーワードや内容を調べる。 【復習】 講義で取り扱った話題について自分で調べ、質疑応答や発表の準備をする。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし。ただし、1年前期に開講される「グローバリゼーション論」（国際コミュニケーション学科、他学科専門科目）を受講していることが望ましい。		
教 科 書	なし。		
参 考 書	必要に応じてプリントを配布する。		

科 目 名	グローバル人材海外演習 Global Human Resource Overseas Training	単 位 数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	演習
担 当 者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	これからの時代は、欧米中心の異文化理解ではなく、アジアやアフリカなどを含めた地球規模での異文化理解が必要になってくる。一方で、価値観も日本とは異なる面もあるため、想定外のことも多々生じる。そのため、「想定外のことが起こる」と言う柔軟性も身につける必要がある。そこで、本演習では、各自が設定したテーマを主軸にしながら、風土や民族、社会状況など、日本とは異なる文化や価値観に接するとともに、文化や習慣が異なる現地の学生と活動し、日本から世界を、世界から日本を捉える視野を持つ素地を作るとともに、これからのグローバル社会に対応できる柔軟性を養うことを目的とする。		
授業概要	春季休業中に、約2週間タイでの海外演習を行う。使用言語は、基本的には日本語（タイ人講師の講義など、一部英語の可能性あり）。海外演習では、事前に決めた各自のテーマに沿った簡単な調査を行う。事前研修では、各自の海外演習中のテーマの検討や、事前調査を行う。詳細については、オリエンテーションで説明する。 海外演習は、岐阜に本社を置く日系企業を中心に、現地での勤務状況や必要とされる能力について話を聞いたり、工場見学や文化施設（世界遺産や博物館など）の見学を行ったり、タイの文化（伝統文化、食文化、芸術など）や歴史を学ぶ予定である。また、現地を散策し、各自のテーマに沿って調べた内容を日本語でまとめ、提出する。 【SDGs：4, 8, 10, 17】		
授業計画	① 出発前に、オリエンテーションおよび、事前研修を行う。 ② 事前：注意事項の説明や各自の海外演習中のテーマの検討などを行う。 ③ 海外研修（タイ・バンコクなど） ④ 事後：課題提出		
予復習等	オリエンテーションで説明する内容を確認し、出発のための準備を怠らないこと。		
評価方法	研修での活動などへの参加態度 50%、発表 50%		
履修条件	履修条件はないが、1年後期に開講される「異文化間能力と社会の変化」（データ駆動科学研究センター、全学科対象）を受講していることが望ましい。		
教 科 書	なし。		
参 考 書	オリエンテーションにて指示する。		